

陸軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十四年四月廿五日

左大臣 織仁親王

(別冊)

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ンス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ納メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精カヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サス然レモ再服役以上ノ下士卒並ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得但憲兵並會計軍醫馬醫軍樂各部ノ下士卒 徵兵令ニ依リ徵集シタル看病卒ヲ除ク 及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ得テ結婚スルヲ得

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スヘシ

第五條 將官並ニ同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士卒以下ニ在テハ所屬隊長(課長)豫備及ヒ後備軍下士卒以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スヘシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サス故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戸長ノ調印シタル身元証書ヲ添フヘシ

第七條 現役士官並ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スヘシ

大尉並同等官 四百六拾圓

中小尉並同等官 六百圓

准士官 八拾圓

下士 八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其ノ金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其妻ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタル

モ妨ケナシ但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ金額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ但シ家計保護金ハ本文届出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルヘシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式並ニ證書式左ノ如シ

第一號書式

結婚願

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生
年號月何年何ヶ月

某 儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元証書(家計保護金証金)
相添差出候間御許可被下度此段奉願候也

年號月日

官 姓 名 印

太政大臣(陸軍卿)(所管長官)宛

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

陸軍卿(所管長官)(何隊長)(何課長)

官 姓 名 印

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村
族籍職業

何某何女(姉)(妹)

某

年號月日生
年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戸長戸長アラサル
地ハ區長

姓 名 印

年號月日

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號月日 官 姓 名 印

朕海軍軍人結婚條例制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十五年十月六日 海軍大臣 子爵仁禮景範

勅令第八十七號 (官報十月七日)

海軍軍人結婚條例

第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士

官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス

第三條 現役下士ハ年齡滿二十五歲以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス

現役卒ハ年齡滿二十五歲以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ

得ス

第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齡十六歲以上ナルヲ要ス

附則

第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

海軍省令第二號

海軍一般

北海道廳 府縣

海軍軍人結婚願出手續左ノ通定ム

明治二十五年十月七日

海軍大臣 子爵仁禮景範

海軍軍人結婚願出手續

第一條 海軍軍人結婚條例第一條ニ依リ結婚ノ許可ヲ願ハントスル者ハ左ノ書式ニ

依リ將官並相當官ハ直ニ海軍大臣ニ差出シ上長官士官及准士官ハ所管長官ヲ經テ

海軍大臣ニ差出シ下士卒ハ所轄長ヲ經テ所管長官ニ差出スヘシ

書式

結婚願

何府縣何國何郡市區何町村何番地
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生
何年何月 何年何箇月

右記載ノ者ト結婚致度候間御許可被下度別紙身元證書相添此段奉願候也

年月日

官(職)姓

名印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓名印

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地
華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

何年何月何日生

何年何月何年何箇月

右ハ行狀端正ニシテ年齢前書ノ通相違無之候此段保證候也

年月日

何府縣何國何郡市區何町村長姓名印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第二條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長

官ニ届出ヘシ

朕軍人恩給法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣総理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山巖
海軍大臣子爵樺山資紀

法律第四十五號

軍人恩給法

第一章 總則

第一條 陸海軍軍人ニシテ現役ヲ離レタル者ハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 陸海軍軍人恩給ハ左ノ六種トス

一 退職恩給

二 免除恩給

三 増加恩給

四 賑恤金

五 給助金

六 扶助料

第三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給及寡婦ノ扶助料ハ終身、孤兒ノ扶助料ハ年齢二十歳ニ至ルマテ賑恤金、給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第二章 退職恩給、免除恩給、増加恩給

第四條 退職恩給ハ准士官以上左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ傷疾ヲ

- 受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス退職シタルトキ
- 二 戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 三 戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲メニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ
- 四 現役十一年以上ニシテ未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖休職、停職満期若クハ論旨ニ依テ退職シタルトキ
- 第五條 免除恩給ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス
- 一 現役十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ定限ノ年齢ニ達セサルモ服役満

期トナリ或ハ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

二 第四條第二又ハ第三ニ由リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

第六條 退職恩給、免除恩給年額ハ軍人恩給ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ト其服役年數トニ從ヒ第一號表若クハ第二號表ニ依テ之ヲ給ス但現役四十一年以上ノ者ニ給スヘキ恩給ハ四十年ノ額又十一年未滿ノ者ニ給スヘキ恩給ハ十一年ノ額トス

第七條 軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任シタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職スルトキハ軍人ノ服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

第八條 退職恩給、免除恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ滿一年以上服役シタル者退職又ハ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキハ左ノ區別ニ依リ恩給ヲ給ス

一 再ヒ現役ヲ離ル、トキノ現官階當初恩給ヲ受ケタルトキノ官階ト同等ナラサルトキハ前役年數ニ再役年數ヲ通算シ再役ノ官階ニ對スル恩給ト既得ノ恩給トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

二 前後ノ官階同等ナルトキハ再役ノ年數ニ依リ恩給ヲ増加ス但前役十一年未滿ニシテ恩給ヲ受ケタル者ニ在テハ前後通算シテ十二年以上ニ至ラサレハ増加セズ

第九條 増加恩給ハ戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ掲クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

- 一 兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡シタルトキ
 - 二 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 三 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 四 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
 - 五 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ
 - 六 前項ニ準スヘキ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ
- 第十條 増加恩給ノ年額ハ軍人之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ從ヒ第三號表ニ依リ之ヲ給ス

第十一條 戦闘及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ検査

ヲ願出ルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

一 一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年

二 一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三個年

第十二條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ請求スル者ハ左ノ書類ニ依リ證明スヘシ

一 傷痍疾病ノ原因ハ現認證書又ハ之ヲ證スル公文ノ寫若クハ口供書

二 傷痍疾病輕重ノ度ハ陸海軍醫官ノ證書若クハ陸海軍醫官ノ查覈ヲ經タル醫師ノ證書

第十三條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ノ支給ハ現役ヲ離レタル日ノ翌日ヨリ始マ

リ死亡ノ月ヲ以テ終ルモノトス

第三章 賑恤金、給助金

第十四條 賑恤金ハ下士以下左ニ掲クル事項ノ一ニ當リ第九條第六ヨリ輕症ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス

一 戦闘及戰地公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

二 戰時平時公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ第四條第三ニ原由スル疾病ニ罹リ現役ヲ離レタルトキ

第十五條 賑恤金ハ之ヲ受クヘキ事故ノ生シタルトキノ現官階ニ應シ前條第一ニ當ル者ハ第三號表第五項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラス前條第二ニ

當ル者ハ同表第六項ノ一個年分ヨリ少カラス十個年分ヨリ多カラサル金額トス

第十六條 給助金ハ下士以上現役中死没シ若クハ現役四年以上十一年未滿ニシテ現役ヲ離レ退職恩給、免除恩給ヲ受ケサル者ニ之ヲ給ス其額ハ第四號表ニ依ル

第四章 服役年

第十七條 服役年ノ始期終期ハ左ノ各項ニ依ル

第一 退職恩給、免除恩給ニ係ル服役年ノ始期

- 一 下士以上ハ初任ノ日陸軍兵卒ヨリ出身ノ下士以上ハ入營ノ日海軍卒ヨリ出身ノ下士以上ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第六ニ當リタル者ハ其兵卒トナリタル日

- 二 陸軍兵卒ハ入營ノ日海軍卒ハ五等卒トナリタル日但第二十四條第七ニ當リタル者ハ其刑期滿限ノ翌日

ル者ハ其刑期滿限ノ翌日

- 三 北海道ニ移住ノ際定規ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ヨリ出身ノ士官以上ハ其士官ニ任シタル日

- 四 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

- 五 海軍下士以下ニシテ明治二年五月一日以前ヨリ勤仕ノ者ハ同月一日

第二 給助金ニ係ル服役年ノ始期

- 一 下士以上初任ノ日

第三 服役年ノ終期

- 一 現役ヲ離レタル日

第十八條 左ニ掲ケタル日數ハ服役年ニ通算ス

- 一 前條ニ掲クル服役年ノ始期ヨリ終期ニ至ルマテノ日數
- 二 豫備後備ニ在ル者戰時若クハ事變ニ際シ召集シタルトキハ其召集中ノ日數
- 三 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナリタルトキハ海軍服務ノ日數陸軍軍人轉シテ海軍軍人トナリタルトキハ陸軍服務ノ日數
- 四 文官ヨリ轉シテ陸海軍軍人トナリタル者ニ在テハ恩給ヲ受クヘキ最下限ノ期ニ至ルマテハ文官服務中ノ日數四分ノ三
- 五 現役ノ者陸軍見習士官、海軍候補生若クハ陸海軍諸生徒トナリ再ト現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
- 六 現役ヲ離レタル後再ヒ現役ニ就キタルトキハ前後ノ日數
- 七 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒、海軍水雷夫及北海道移住ノ際定規

ノ給助ヲ受ケタル屯田兵下士卒ニシテ從軍シタルトキハ其日數

第十九條 左ニ掲クル日數ハ服役年ヨリ除算ス

- 一 刑期中及逃走中ノ日數
 - 二 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒中ノ日數但從軍中ノ日數ハ此限リニアラス
 - 三 文官奉職中ノ日數ニシテ官吏恩給法ニ依リ除算スヘキ月數
 - 四 年齢十七歳未滿ノ日數
- 第五章 從軍年

第二十條 從軍年ハ現役外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スルモトス

第二十一條 從軍年ノ加算ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ内國港灣ヲ出發シタルトキハ二個年
- 二 内國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ臨ミタルトキハ一個年
- 三 臨戰合圍地境内ニ於テ服役シタルトキ外國ニ在テハ二個年内國ニ在テハ一個年
- 四 日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ一個年
- 五 出征事件ニ關シ功績アル者及一時ノ出兵ヲ出征軍ト見做シ從軍年ニ加算スヘキ場合ハ勅裁ニ依ル

第二十二條 海軍軍人ノ外國航海ハ從軍年ニ準シ内國港灣出發ノ日ヨリ一航海ヲ半個年ニ加算ス其航海十二個月ニ超エルトキハ更ニ半個年ヲ加算ス但第二十一條ニ當ルトキハ本條ヲ適用セス

第二十三條 從軍年ノ加算ハ十二個月間數回ノ戰役ニ從ヒ若クハ航海ヲ爲スト雖モ

重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ亘リ十二個月ニ餘ル所ノ分數ハ更ニ一役若クハ一航海ト爲ス

第六章 恩給ヲ受クヘキ資格及權利ノ消滅停止

第二十四條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給、免除恩給、增加恩給、賑恤金、給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ
- 四 將校及相當官ニ於テハ陸海軍將校分限令第二條第一項第六項ニ依リ免官トナ

リタルトキ

五 准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

六 陸海軍下士陸軍上等兵看護手樂手補ニ於テハ陸海軍刑法普通刑法其他ノ罰則

ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒ若クハ陸軍懲罰令若クハ憲兵條例第三十五條ニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

七 諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑

法ニ依リ將校ニ對シテ剝官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十五條 退職恩給、免除恩給、増加恩給ヲ受クル者重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

一 再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但商業

ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ左ルトキハ此限ニアラス

二 公權ヲ停止セラレタルトキ増加恩給ハ公權ヲ停止セラレタル場合ニアラサレハ停止セサルモノトス

第二十六條 恩給ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル後三箇年内ニ請求セサレハ其權利ヲ拋棄シタルモノトス

第七章 扶助料

第二十七條 軍人左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス

一 第四條第二第三ニ當リ死歿シタルトキ

二 第四條第一第四第五條第一ニ當リ恩給ヲ受ケ又ハ之ヲ受クヘキ權利ヲ有シテ
死歿シタルトキ

第二十八條 寡婦扶助料ノ年額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ因由トニ依リ前條第一ニ
當ルトキハ第五號表ニ依リ第二ニ當ルトキハ第六號表ニ依テ之ヲ給ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者左ニ掲クル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅ス

- 一 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ
- 三 扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ三箇年内ニ請求セサルトキ
- 四 死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚嫁シタルトキ

第三十條 扶助料ヲ受クル者公權ヲ停止セラレタルトキハ其間扶助料ヲ停止ス

第三十一條 寡婦ナキトキ又ハ扶助料ヲ受クル寡婦死歿シ若クハ權利消滅シタルト
キハ其扶助料ヲ孤兒ニ給ス

扶助料ヲ受クル者公權停止中ハ其轉給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ給ス

第三十二條 孤兒扶助料ハ數子アルトキハ家名繼襲者ニ給シ非戸主軍人ノ孤兒ニ在
テハ長子ニ給ス其繼襲者及長子死歿シ若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿ツル
トキハ順次年少者ニ及フモノトス但家名繼襲者ヲ除クノ外男子ヲ先ニシ女子ヲ後
ニス

第三十三條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及孤兒ナク若クハ扶助料ヲ受ケタル寡婦及孤兒
戸籍ヲ去リ若クハ死歿シ若クハ權利消滅シタルトキ父母又ハ祖父母アルトキハ寡
婦ニ相當スル扶助料ノ全額ヲ其父母又ハ祖父母ニ終身給スルコトヲ得

其扶助料ハ先ツ父ニ給シ其父存在セサルトキ若クハ權利消滅シタルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此例ニ依ル

第三十四條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ死没シタル軍人ノ戸籍内ニアル二十歳未滿又ハ癡疾若クハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル兄弟姉妹アリテ之ヲ給養スル者ナキトキハ寡婦ニ相當スル扶助料一個年分ヨリ少カラス五個年分ヨリ多カラサル金額ヲ人員ニ拘ハラズ一時限リ其兄弟姉妹ニ給スルコトヲ得

第三十五條 第二十七條乃至第三十四條ヲ適用スヘキ軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ハ其軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記シタル者ニ限ル

第三十六條 此法律ニ於テ孤兒トハ年齢二十歳未滿ノ男女子ニシテ未ダ結婚セサル

者ヲ云フ但養男女子ハ家名繼襲者ニ限ル

第三十七條 扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ給ス

雜則

第三十八條 陸軍軍人及海軍准士官以上ニシテ明治四年八月以前ヨリ勤仕ノ者退職若クハ免官スルトキハ同年七月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス海軍下士以下ニシテ明治二年五月以前ヨリ勤仕ノ者ハ同年四月以前ノ勤仕ニ對シテハ同年同月ノ現官等ニ相當スル月俸ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一個年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス

第三十九條 豫備後備ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死没シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ

疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者平時軍隊勤務ノ爲メ死没シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキ亦同シ

第四十條 陸軍見習士官、海軍候補生、陸海軍諸生徒定規ノ給助ヲ受クル屯田兵下士卒及海軍水雷夫ハ第四條第二第二ニ因リ死没シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサル者ニ限リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第四十一條 恩給ノ支給ハ陸海軍大臣ノ證明ニ依リ恩給局ノ審査ヲ經テ内閣總理大臣之ヲ裁定ス

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ障害セラレタリトスル者ハ六個月以内ニ

恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請フコトヲ得其裁決ニ服セサル者ハ一個年以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但左ノ事件ニ關シテハ恩給局ノ裁決ハ終審確定ノモノトス

一 傷痍疾病ノ原因及其輕重

二 職務ニ堪ユルト否ラサルト

第四十二條 恩給ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ得ス又負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第四十三條 明治八年達海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料及扶助料ヲ受クル者ハ總テ該令ニ依ルヘシ但明治九年達陸軍武官恩給令ニ依リ受ケタル傷痍恩給ヲ除クノ外其權利消滅及停

軍人恩給法第四十四條第四十五條

止ハ此法律ニ依ル

明治七年佐賀及臺灣ノ役明治九年熊本及山口ノ役明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シタル者並ニ明治十五年同十七年朝鮮國京城變亂ノ際該國ニ駐在若クハ派遣シタル者ノ從軍年計算ハ總テ從前ノ命令ニ依ル

第四十四條 此法律施行前ニ現役ヲ離レタル者ノ恩給ハ明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依ルヘシ但此法律施行ノ月ヨリ三個年內ニ請求セサレハ之ヲ受クヘキ權利ヲ拋棄シタルモノトス

第四十五條 此法律ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

第一號 退職恩給表

將官及相當官

佐尉官及相當官

准士官

年 數 等	親任官		勅任官		任官		判任官
	一 等	二 等	一 等	二 等	三 等	四 等	
十一年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十二年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十三年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十四年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十五年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十六年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十七年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十八年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
十九年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
二十年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓
二十一年	千五百圓	千二百圓	千五百圓	七百五十圓	六百圓	四百五十圓	三百圓

軍人恩給法

二十二年	千七百七十四圓	千四百二十二圓	八百八十七圓	五百三十三圓	二百六十二圓	七十八圓
二十三年	千八百圓	千四百六十二圓	九百圓	五百四十三圓	二百六十七圓	八十圓
二十四年	千八百二十五圓	千四百七十八圓	九百三十圓	五百五十三圓	二百七十二圓	八十三圓
二十五年	千八百七十五圓	千四百九十五圓	九百六十五圓	五百六十三圓	二百七十七圓	八十五圓
二十六年	千八百九十五圓	千五百一十五圓	九百九十五圓	五百七十三圓	二百八十二圓	八十八圓
二十七年	千九百圓	千五百三十五圓	一千零五圓	五百八十三圓	二百八十七圓	九十圓
二十八年	千九百二十五圓	千五百五十五圓	一千一十圓	五百九十三圓	二百九十二圓	九十三圓
二十九年	千九百七十五圓	千五百七十五圓	一千一十五圓	六百零三圓	二百九十七圓	九十五圓
三十年	千九百九十五圓	千五百九十五圓	一千二百圓	六百一十三圓	三百零二圓	九十八圓
三十一年	二千圓	千六百一十五圓	一千二百五圓	六百二十三圓	三百零七圓	一百圓
三十二年	二千二十五圓	千六百三十五圓	一千三百圓	六百三十三圓	三百一十二圓	一百零三圓
三十三年	二千五百圓	千六百五十五圓	一千三百五圓	六百四十三圓	三百一十七圓	一百零五圓

第二號 免除恩給表

三十四年	二千七十圓	千六百三十三圓	八百三十三圓	六百二十四圓	二百三十二圓	二百八圓
三十五年	二千一百圓	千六百五十三圓	八百四十三圓	六百三十四圓	二百三十七圓	二百一圓
三十六年	二千二百圓	千六百七十三圓	八百五十三圓	六百四十四圓	二百四十二圓	二百三圓
三十七年	二千三百圓	千六百九十三圓	八百六十三圓	六百五十四圓	二百四十七圓	二百五圓
三十八年	二千四百圓	千七百一十三圓	八百七十三圓	六百六十四圓	二百五十二圓	二百七圓
三十九年	二千五百圓	千七百三十三圓	八百八十三圓	六百七十四圓	二百五十七圓	二百九圓
四十年	二千六百圓	千七百五十三圓	八百九十三圓	六百八十四圓	二百六十二圓	二百一圓

十三年	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十八圓	三十四圓	三十圓
十四年	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十九圓	四十四圓	三十九圓	三十五圓	三十一圓
十五年	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓	三十二圓
十六年	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十三圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓	三十三圓
十七年	七十五圓	六十八圓	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓
十八年	七十七圓	七十圓	六十二圓	五十六圓	五十一圓	四十六圓	四十一圓	三十六圓
十九年	七十九圓	七十二圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十七圓	四十二圓	三十七圓
二十年	八十一圓	七十四圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十三圓	三十八圓
二十一年	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓	三十九圓
二十二年	八十七圓	七十八圓	七十圓	六十四圓	五十八圓	五十二圓	四十六圓	四十圓
二十三年	九十圓	八十一圓	七十二圓	六十六圓	六十圓	五十四圓	四十八圓	四十二圓
二十四年	九十二圓	八十三圓	七十四圓	六十七圓	六十一圓	五十四圓	四十九圓	四十三圓

二十五年	九十四圓	八十五圓	七十六圓	六十九圓	六十二圓	五十六圓	五十圓	四十四圓
二十六年	九十六圓	八十七圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十一圓	四十五圓
二十七年	九十九圓	八十九圓	八十圓	七十三圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓	四十六圓
二十八年	百二圓	九十二圓	八十二圓	七十五圓	六十八圓	六十一圓	五十四圓	四十七圓
二十九年	百五圓	九十五圓	八十四圓	七十七圓	七十圓	六十三圓	五十六圓	四十九圓
三十年	百七圓	九十七圓	八十六圓	七十八圓	七十一圓	六十四圓	五十七圓	五十圓
三十一年	百九圓	九十九圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十五圓	五十八圓	五十一圓
三十二年	百十一圓	百一圓	九十圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十九圓	五十二圓
三十三年	百十四圓	百三圓	九十二圓	八十四圓	七十六圓	六十八圓	六十圓	五十三圓
三十四年	百十七圓	百五圓	九十四圓	八十六圓	七十八圓	七十圓	六十二圓	五十四圓
三十五年	百二十圓	百八圓	九十六圓	八十八圓	八十圓	七十二圓	六十四圓	五十六圓
三十六年	百廿二圓	百十圓	九十八圓	八十九圓	八十一圓	七十三圓	六十五圓	五十七圓

三十七年	百廿四圓	百十二圓	百	圓九十一圓	八十二圓	七十四圓	六十六圓	五十八圓
三十八年	百廿六圓	百十四圓	百二圓	九十三圓	八十四圓	七十五圓	六十七圓	五十九圓
三十九年	百廿九圓	百十六圓	百四圓	九十五圓	八十六圓	七十七圓	六十八圓	六十圓
四十年	百卅二圓	百十九圓	百六圓	九十七圓	八十八圓	七十九圓	七十圓	六十一圓

第三號 負傷增加恩給表

將官及相當官		准士官		下士官		卒	
親任官	勅任官	奏任官	判任官	海軍	陸軍	海軍	陸軍
一 項	二 項	三 項	四 項	一 等卒	二 等卒	三 等卒	四 等卒
下五十八圓	下九十二圓	下百零七圓	下百二十二圓	三十九圓	三十五圓	三十三圓	二十八圓
九百圓	七百圓	六百圓	五百圓	三十二圓	三十圓	二十七圓	二十四圓
七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	二十八圓	二十五圓	二十三圓	二十圓
六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二十圓	十八圓	十六圓	十四圓
四百圓	三百圓	二百圓	一百圓	十八圓	十六圓	十四圓	十二圓
三百圓	二百圓	一百圓	五十圓	十六圓	十四圓	十二圓	十圓
二百圓	一百圓	五十圓	三十圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓
一百圓	五十圓	三十圓	二十圓	十二圓	十圓	八圓	七圓

第四號 給助金表

將官及相當官		准士官		下士官	
親任官	勅任官	奏任官	判任官	海軍	陸軍
一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等
千五百圓	千二百圓	千五百圓	千七百圓	六百圓	四百圓
千二百圓	千五百圓	千七百圓	六百圓	四百圓	三百圓
千圓	千二百圓	千五百圓	千七百圓	六百圓	四百圓
八百圓	七百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓
七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓
六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓	一百圓
五百圓	四百圓	三百圓	二百圓	一百圓	五十圓
四百圓	三百圓	二百圓	一百圓	五十圓	三十圓
三百圓	二百圓	一百圓	五十圓	三十圓	二十圓
二百圓	一百圓	五十圓	三十圓	二十圓	十圓
一百圓	五十圓	三十圓	二十圓	十圓	五圓

第五號 戰鬥及公務ノ爲メ死没シタル者ノ寡婦孤兒扶助料

- 見人連署 親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長ノ與印ヲ受スヘシ 親族ニ掲クル書類ノ外市町村長ノ證明シタル戸籍調書ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ
- 一 現役中死没シタル軍人ノ遺族ハ所管長官ヨリ下渡シタル死者ノ履歷書
 - 二 前項ノ者軍人恩給法第二十七條第一ニ當ルトキハ履歷書ノ外所管長官ヨリ下渡シタル公務ノ爲メ死没シタル事實ヲ證明スヘキ書類
 - 三 恩給ヲ受ケタル軍人ノ遺族ハ其恩給證書
 - 四 扶助料ヲ受クル者死没若クハ權利消滅シ若クハ支給期限ノ滿チタルトキ其轉給ヲ受クヘキ者ハ前者ノ恩給證書
 - 五 扶助料ヲ受クル者公權停止ニ因リ其轉給ヲ受クヘキ者ハ確定裁判ノ宣告書寫

六 軍人恩給法第三十四條ニ當ル癡疾不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第一第二若クハ第三若クハ第四ニ掲クル書類ノ外醫師ノ診斷證書

地方長官前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ陸軍大臣若クハ海軍大臣ニ差出スヘシ但明治十年鹿兒島ノ役ニ從軍シ陸軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受ケタル元警視局員ノ遺族ヨリ本條ノ請求ヲ爲シタルトキハ地方長官ヨリ内務大臣ニ差出スヘシ

第四條 陸海軍大臣又ハ内務大臣前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ審査ノ上請求ノ理由アリト認ムルトキハ恩給計算書ヲ作り證據書類ヲ添ヘ、其傷痕疾病ニ起因スルモノニ付テハ陸軍省醫務局若クハ海軍中央衛生會議ノ覆數ヲ經タル書類、軍人ノ寡婦父母祖父母及兄弟姉妹ノ扶助料ニ付テハ陸海軍兵籍簿ノ寫ヲ添ヘ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

陸海軍大臣又ハ内務大臣ニ於テ前項請求ノ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ具シテ之ヲ内閣總理大臣ニ差出スヘシ

第五條 内閣ニ於テ恩給ノ請求ヲ許可シタルトキハ恩給證書ヲ作り陸軍省若クハ海軍省若クハ内務省ヲ經テ本人居住地ノ地方廳ヲシテ之ヲ下付セシム但一時ノ支給ニ係ルモノハ辭令書ヲ用ユ

恩給證書若クハ辭令書ヲ下付シタルトキハ内閣ハ其旨ヲ大藏省ニ通報スヘシ

第六條 軍人恩給法第二十八條ノ月俸ニシテ米給ニ係ルモノハ官吏恩給法施行規則第十一條ノ例ニ依ル

第七條 扶助料ヲ受クル者死没若クハ戶籍ヲ去リ若クハ結婚ニ若クハ支給期限ノ満チタルトキハ地方廳ニ於テ其月ノ翌月ヨリ扶助料ノ支給ヲ廢シ其旨ヲ大藏省ニ通

知スヘシ大藏省ハ之ヲ内閣恩給局ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ扶助料ノ轉給ヲ受クヘキ者ナキトキハ地方廳ニ於テ其恩給證書ヲ收メテ内閣恩給局ニ送付スヘシ

第八條 軍人恩給法第九條第十四條第十五條ノ傷痍疾病輕重ノ等差ハ陸海軍大臣之ヲ定ム

第九條 明治八年達陸軍武官傷痍扶助死亡ノ者祭柩家族扶助概則及海軍退隱令明治九年達陸軍武官恩給令明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ退隱料扶助料ヲ受クル者左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル

- 一 死没又ハ權利消滅又ハ停止ノトキ
- 二 恩給證書ヲ亡失シタルトキ

三 改氏名又ハ居住地ヲ轉シタルトキ

第十條 明治十六年達陸軍恩給令海軍恩給令ニ依リ恩給又ハ扶助料ヲ請求スル者ハ本則ニ依ルヘシ

第十一條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ本規則ニ依リ市町村長ノ爲スヘキ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行ヘシ

第十二條 本規則ニ於テ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ官吏恩給法施行規則ノ例ニ依ル

陸軍省令第二十二號

陸軍軍人恩給取扱手續左ノ通定ム

明治二十三年七月二十三日 陸軍大臣 伯爵大山 巖

陸軍軍人恩給取扱手續

第一條 軍人恩給法ニ依リ恩給ヲ請求スル手續ハ軍人恩給法施行規則ニ示シタルモノ、外陸軍部内ニ在テハ此細則ニ準據スヘシ

第二條 退職恩給免除恩給増加恩給ノ請求書ハ當該軍人現役ヲ離レタル後第一第二書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長之ヲ調査シ計算書(第九書式)ヲ作り順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第三條 傷痍疾病ニ基ク恩給ノ請求ニ係ルトキハ所管長官其診斷證書(第五書式)ヲ

陸軍々人恩給取扱手續自第一條至第三條

軍醫長ニ移シテ審査セシメタル上陸軍大臣ニ進達スヘシ

地方醫師ノ診断證書ヲ以テ恩給ヲ請求スルハ陸軍醫官ノ診断ヲ受クルコト能ハサル場合ニ限ル其證書ニハ原因經過療法及ヒ現症ヲ詳記シテ醫師二名署名セシムヘシ所管長官ハ醫官ヲシテ其傷痍疾病ノ等差ヲ判定シ查覈證書ヲ作ラシメタル上書類ヲ軍醫長ニ移シ之ヲ審査セシムヘシ

第四條 軍人恩給法第十一條ニ當ル者ハ其期限内ニ於テ居住地方ノ師團長若クハ屯田兵司令官ニ檢査ヲ請求スルコトヲ得

師團長若クハ屯田兵司令官其請求ヲ受ケタルトキハ醫官ヲシテ其症狀ヲ實査セシメ診斷證書(第五書式)ヲ作ラシム其診斷證書ノ審査ニ係ル取扱ハ第三條ノ例ニ同シ

第五條 休職者停職者ノ恩給請求書ハ直ニ所管師團長若クハ屯田兵司令官兵籍ヲ寄シタル者ニ其寄留地ノ師團等ニ呈スヘシ師團長ハ之ヲ參謀長屯田兵司令官ハ參謀ニ下シテ調査セシメ

計算書(第九書式)ヲ作り之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第六條 賑恤金ノ請求ハ第三書式ニ示シタル書類ヲ具備シ舊所屬長ニ呈スヘシ所屬長ハ順序ヲ經テ所管長官ニ呈シ所管長官ハ第三條ノ例ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第七條 給助金ノ請求ハ第四書式ニ示シタル書類ヲ具備シ本人若クハ遺族ヨリ舊所管長官ニ呈スヘシ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第八條 恩給ヲ受クル權利ヲ有スル士官候補生ノ内見習士官ハ曹長ニ一等軍曹ニ等軍曹ノ各階級ニ進ミタル者ハ其階級ニ其他ノ生徒ハ總テ兵卒ニ進ス

第九條 服役年ヲ算スルニ當リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタルトキハ其月ノ大小ニ依

リ積算スルヲ法トス故ニ現役ヲ離レタル月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ヒタルトキハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一箇月ノ區域ヲ定ム

第十條 軍人恩給法施行規則第二條ニ依リ所管長官ヨリ死者ノ履歷書ヲ其遺族ヘ下附スルトキハ兵籍ノ寫ヲ添ユヘシ 戸籍ニ關スル部分ノミ記ス 但給助金ノミヲ受クヘキ遺族ニ在テモ亦同シ

前項ノ履歷書(第八書式)及兵籍寫ニハ所管長官其事實ヲ証明スヘシ但兵籍寫ノ證明書式ハ第八書式末文ニ依ル

第十一條 恩給、賑恤金給助金ノ請求書及ヒ履歷書ハ各二通ヲ差出スヘシ

第一書式(用紙美濃紙)

恩給請求書

廿五年六月省令第十號參看

何年何月何日何兵ニテ入營(何々被申付)何年何月何日被任何官爾來何箇年服役何年何月何日豫備(後備)(退役)(服役滿期)(傷痍(疾病)ノ故ヲ以テ退役(免官)(免役)ニ相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

元第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廨)何府(縣)何市區(郡)何市區(郡)何村(番地華(士)族(平民)何府(縣)何市區(郡)何村(番地寄留)

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

傷痍疾病ニ係ルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷証書(第五書式)若クハ第三條第二項ノ地方醫師診斷証書

陸軍々人恩給取扱手續第一書式

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書
第二書式(用紙美濃紙)

(傷痍疾病重症ニ趨キ恩給ノ増加ヲ請
求若クハ其恩給ヲ更ニ請求スルトキ)

恩給請求書

何年何月何日ヨリ傷痍(疾病)ノ故ヲ以テ恩給及負傷増加恩給下賜候(現役ヲ離レ
候)處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ趨キ別紙診斷證書ノ通リ候間御檢査ノ上軍人恩
給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書(第八書式)

診斷證書 地方醫師ノ製シタル診斷證書ニア
リテハ醫師二名連署シタルモノ

現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第三書式(用紙美濃紙)

賑恤金請求書

何年何月何日何地ニ於テ何々ノ爲メ傷痍ヲ受ケ(疾病ニ罹リ)爾來加療ノ未服役ニ
堪ヘサルヲ以テ何月何日免官(免役)相成候就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ相當ノ
賑恤金下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

元官氏名印

陸軍々人恩給取扱手續第四書式

二二二

所管長官爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

診斷證書(第五書式)若クハ第三條第二項ニ同シキ地方醫師診斷證書
現認證書(第七書式)若クハ公文ノ寫若クハ口供書

第四書式(用紙美濃紙)

給助金請求書

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤績本年何月何日現役ヲ離レ候ニ付軍人恩給法
第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官氏名印

所管長官爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

履歷書(第八書式)

(遺族ヨリ出願ノトキ)

給助金請求書

第何師團何兵第何聯隊第何中隊(官廨)

故官氏名

右何年何月何日死去仕候ニ付軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添
請求仕候也

故官氏名寡婦(孤兒)(遺族)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)
何府(縣)何市區(郡)町(村)番地寄留

氏名印

所管長官爵氏名殿

附属スヘキ證據書類

陸軍々人恩給取扱手續第四書式

二二三

履歷書(第八書式)

第五書式(用紙美濃十三行罫紙)

(「内ハ朱書)

診斷證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年(何役)何月何日何地ニ於テ何々ノ際右大腿前下部ヨリ膝關ニ貫通スル骨傷銃創ヲ受ケ(何病ニ罹リ)直ニ縛帶所(某野戰病院)ニ搬テ一時ノ處置ヲ施シ爾後何々病院ヲ經テ何月何日某衛戍病院(某豫備病院)ニ入院(軍人恩給法第十一條ニ當ルモノハ爾來加療ノ末創面治癒スルニ由リ何年何月現役ヲ離レタル後何月何日來該傷痕ノ爲メ何々症ヲ發シ)當時ノ症狀何々(何々症ヲ繼併發ス)依テ何々ノ部ニ何々ノ手術(何々ノ療法)ヲ施シ爾後經過何々ニシテ現今創面(何々)ハ治癒スト雖モ右膝關節何度ノ角ニ於ケル強剛ヲ遺シ且患肢ハ健肢ヨリモ瘦削スルコト何々

ノ部ニ於テ周測スルニ何仙迭迷篤爾ニシテ該肢ノ用ヲ妨クルニ由リ軍人恩給法第九條第何項症(賑恤金ニ係ルモノハ軍人恩給法第十四條第何項即陸軍々人傷痕疾病恩給等差例第二條第何款ノ甲(乙)症)ト診斷候也

主任

年月日

職 官氏 名 印

再診

何病院長 官氏 名 印

「審査」

「第何師團軍醫長 官氏 名 印」

「右覆數候處適當ノ診斷ト認定候也」

「陸軍省醫務局長 氏 名 印」

備考 傷痕疾病ノ原因、症候(傷痕ノ種類、部位、淺深等、疾病ノ輕重、併發症、繼

發症等)經過、療法及ヒ現時官能障礙ノ景況ヲ詳記スヘシ
本證書ハ退役又ハ服役免除ノ爲ニ要スル診斷證書ト同時ニ調製スヘキモ
ノトス

再診ハ本人ニ就テ診斷スルヲ例トス但シ場合ニ依リ病床日誌ノ寫(病床
日誌ヲ作ラサルトキハ病歷書)ニ就テ再診スルコトヲ得
各官衙附憲兵隊附等ノモノニ係ル審査ノ取扱ハ一般ノ手續ニ依ル

第六書式(用紙美濃十三行罫紙)

死亡證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日何地ニ於テ何々ノ際何部ニ何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾後何病院
(何々ヲ經テ何月何日來何病院)ニ於テ加療候處(何々症ヲ繼(併)發シ)遂ニ何々ニ

由リ本日午前(後)何時何分死亡候也

年 月 日

職 官 氏 名 ㊦

備考 入院患者ニアリテハ病院長其他ニアリテハ主任ノ醫官之ヲ調製スルモノ
トス

第七書式

現認證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏 名

右何年何月何日午前(後)何時何地ニ於テ俱ニ進撃ノ際(器械體操何演習何々ノ際
何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲ニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認候也

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

年 月 日

官 氏 名 ㊦

同

官 氏 名 印

備考 本證書ハ勉メテ受傷ノ現況ヲ詳記スヘシ

現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ作ルヘシ

第八書式

履歷書 (死者ノ遺族ヘ下付スヘキ履歷書モ之ニ準ス)

何府(縣)何市區(郡)町(村)番地華(士)族(平民)

同 何番地寄留

官 氏 名 印

明治何年何月何日 徴兵ニテ何師團ヘ入營(任何官)ル官廳ノ名ヲ任官ノ下ニ一々

同 何年何月何日 何々ノ科ニ依リ輕禁錮何日

同 何年何月何日 任何兵二等軍曹

同 何年何月何日 任何兵一等軍曹

同 何年何月何日 某地從軍 (外國戰ニ當リ出征軍ニ編入セラレタルトキハ內國

港灣出發ノ日)

(內國戰ニ在テハ戰地ニ臨ミタル日)

(臨戰台圍地境內ニ於テ服役シタルトキハ其境內ニ

於テ役ニ就キタル日)

(日本國外ノ鎮戍ニ在リタルトキハ其鎮戍ニ臨ミタ

ル日)

同 何年何月何日 某地ヨリ歸營

(外國戰ニ當リテハ歸港ノ日)

(內國戰ニ當リテハ戰地ヲ退キタル日)

(臨戰台圍地境內ニ於テ役ニ就キタルトキハ其役ヲ

離レタル日)

(日本國外ノ鎮戍ニ在リシトキハ其鎮戍ヲ離レタル

日)

同 何年何月何日 任何兵曹長

同 何年何月何日 任何兵少尉

同 何年何月何日 任何兵中尉

同 何年何月何日 豫備(後備)(退役)被仰付(免官)(免役)(死亡)

右相違無之依テ証明候也

年月日

職官氏名

印

第九書式

恩給計算書

官氏名

年	月	日	事由	服役年通算
明治何年	何月	何日	任何官	何年何箇月 (一時賜金ニ係ル年月)
同何年	何月	何日	任何官	
同四年	七月	三十日	官祿何石 月俸何圓	何年何箇月
同何年	何月	何日	徵兵	
同何年	何月	何日	教導團生徒	除ク
同何年	何月	何日		

同何年	何月	何日	任何官	何年何箇月何日
同何年	何月	何日	任何官	
同何年	何月	何日	任何官	何年何箇月何日 加算何年
同何年	何月	何日	服役終期	
同何年	何月	何日	何役從軍	何年何箇月何日
同何年	何月	何日	何役從軍	
同何年	何月	何日	輕禁錮	何月何日
同何年	何月	何日	輕禁錮	
				差引何年何箇月何日
				退職(免除)恩給何年ノ高
				金圓 四分ノ金額

朕陸軍士官學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第二百三十三號 (官報十二月十八日)

陸軍士官學校條例

第一條 陸軍士官學校ハ陸軍各兵科ノ士官候補生ヲ召集シテ生徒トナシ初級士官タルニ必要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大佐

副官

大尉
中尉

教官

中(少)佐、少佐、大尉
軍醫、獸醫、陸軍教授

馬術教官

騎兵大尉

中隊長

大尉

中隊附士官

中尉

軍醫

獸醫

軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ総理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官及下士陸軍屬ヲ置ク

第五條 武官教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔シ其中佐若クハ少佐ノ教官ヲ以テ科長トス
第六條 各科長中戰術軍制學科長ハ本科教授ノ外訓育ニ屬スル術科ノ監督ヲ兼ヌル
モノトス

第七條 馬術教官ハ諸生徒ノ馬術及騎兵科生徒ノ教練ニ任シ兼テ校庭一切ノ事ヲ統
ヘ馬匹ノ調教ヲ掌理ス其下ニ騎兵科下副官同下士ヲ置ク

第八條 文官教官ハ外國語學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第九條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒
ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且ツ內務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任ト
ス

第十條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上ニ就

テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス但シ騎兵科士官ハ生徒ノ馬
術及騎兵科生徒ノ教練上ニ就テハ馬術教官ニ隸ス

第十一條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十二條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、
被服、諸給與、炊爨等ノ事ヲ掌ル但シ下士中ノ若干員ハ本文勤務ノ外劍術體操ノ助
教ヲ分擔ス

第十三條 兵卒ヲ師團各隊ヨリ分遣セシメ生徒ノ使用ニ供フ

第十四條 軍醫ノ下ニ看護長獸醫ノ下ニ蹄鐵工長(下長)軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十五條 生徒ノ學期ハ一年七箇月トシ毎年十二月上旬ニ始リ翌々年六月下旬ニ終
ルモノトス

第十六條 生徒ハ二中隊ニ編制シ各中隊ハ同學期ノ生徒ヲ以テス

第十七條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ士官學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十八條 生徒ハ其兵籍素ヨリ本隊ヲ離ル、コトナシト雖モ入校中ハ總テ本校ノ管轄トス

第十九條 生徒ノ諸給與ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ據ル

第二十條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十一條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校歸隊セシム

- 其一 學術科ノ豫習全カラスノ實際勤務練習ノ識力ニ乏シク卒業ノ目途ナキ者
- 其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 自己ノ不攝生ヨリ發病シ久シク休業スル者

其五 長病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

第二十二條 校長ハ學期ノ終リニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試験ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス

第二十三條 學期中ノ諸結果劣等ノ爲メ卒業試験ヲ受クルヲ得ス若クハ卒業試験ニ落第セシ者ハ本條例第二十一條ニ據ル

第二十四條 毎年七月中旬ヨリ九月上旬マテノ間ニ於テ凡ソ六週間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十五條 毎年六月全學期ヲ終リタル生徒ノ教授及訓育ニ任セシ教官及中隊長中隊附士官ハ九月上旬ヨリ十一月中旬マテノ間師團各隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシ

第二十六條 前條隊附勤務ヲ爲スニハ中隊長及中隊附士官ハ各本科ノ兵隊ニ限ルト

雖モ教官ニ在テハ步騎砲工輜重兵隊中ニ就キ己レノ屬スヘキ兵種ヲ希望スルコトヲ得

第二十七條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ヲ備フ其馬匹材料ハ他諸學校ニ兼用ス

第二十八條 生徒野營演習ノ際所要ニ依リ校園若クハ第一師團ノ諸隊ヲ使用スルコトヲ得

朕陸軍各兵科現役士官補充條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ

御名 御璽

明治三十二年七月九日 內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍 大臣伯爵大山 巖

勅令第九十二號 (官報廿二年七月九日)

陸軍各兵科現役士官補充條例

第一條 陸軍歩、騎、砲、工兵科現役士官ノ補充ハ陸軍出身志願ニシテ才能及學力ヲ有スル者ヲ選ンテ士官候補生ト爲シ各自ノ希望ニ依リ各兵科聯(大)隊ニ配賦シ概テ一箇年間必要ノ教育ヲ與ヘタル後一年七箇月士官學校ニ分遣シ卒業ノ上原隊ニ

現役士官補充條例第一條

廿七年二月
勅令第
七號參看

復歸セシメ六箇月以上士官ノ勤務ヲ習得セシメ將校會議ニ於テ可決シタル者ヲ以テス但屯田各兵科士官ノ補充ハ他同兵科ノ士官ヲ以テシ輕重兵科士官ノ補充ハ他兵科士官ヨリ轉科セシメ憲兵科士官ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 士官候補生ニ採用シ得ヘキ者ハ左ノ如シ

其一 幼年學校生徒ニシテ卒業試験ニ及第セシ者

其二 一年志願兵又ハ其他ノ者年齡十八年以上二十三年以下ニシテ尋常中學卒業

證書ヲ所持スル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

第三條 毎年採用スヘキ士官候補生ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第四條 士官候補生召募ノ試験格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第五條 幼年學校生徒ヲ士官候補生ト爲スニハ校長該生徒ノ人名書ニ考科表及卒業

試験ノ成績ヲ添ヘ監軍ニ進達ス

第六條 一年志願兵ニシテ士官候補生タランコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添

ヘ尋常中學卒業證書ヲ所持ス 順序ヲ經テ都督師團長ニ差出シ都督師團長ハ各志願

ル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ 寄留ノ者ハ其ニ照會シ身分、財産、教育、性質、品行等ニ係ル詳

細ノ證明証ヲ得之ヲ願書ニ添ヘ監軍ニ進達ス

第七條 華士族平民ニシテ士官候補生タランコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添

ヘ尋常中學卒業證書ヲ所持ス 本籍ノ地方長官 寄留ノ者ハ其ニ差出シ地方長官ハ各

ル者ハ該證書ノ寫ヲ添ヘ 志願者ノ身分、財産、教育、性質、品行等詳細之ヲ取調ヘ其證明書ヲ作り之ヲ願書ニ

添ヘ其地所管師團長ニ送付シ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第八條 尋常中學卒業證書ヲ所持セサル志願者ハ本條例第六條又ハ第七條ノ手續ヲ

廿五年十
二月勅令
第百十五
號參看

爲シタル後試験ヲ爲ス之カ爲メ監軍ハ試験ヲ受クヘキ者ノ人名書ヲ師團長近衛師團ヲ除クニ下シ師團長近衛師團長ヲ除クハ之ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ下付シ該委員ヲ各試験場ニ派遣シテ試験ヲ施行セシム

第九條 師團長近衛師團長ヲ除クハ試験前ニ於テ身體検査ノ時日ヲ定メ之ヲ其部下各隊及管内ノ陸軍諸官衙并ニ地方長官ニ通達シ志願者ヲ検査地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體検査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員到着ノ時ニ下付ス陸軍將校生徒試験臨時委員ハ試験ノ上其書類ヲ師團長近衛師團長ヲ除クニ進達シ師團長近衛師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第十條 監軍ハ本條例第五條乃至第七條ノ書類ト第九條ノ試験成績トニ依リ其士官候補生ニ採用スヘキ者ヲ裁定シ之ニ士官候補生ヲ命シ各兵科聯(大)隊ニ配賦ス但

候補生ハ本隊ノ定員外トス

第十一條 一年志願兵ニシテ前條ニ該ル者ハ士官候補生ヲ命スルノ日直チニ退營セシメ更ニ一般候補生ト同時ニ原隊へ入隊セシム但時宜ニ依リ他ノ隊ニ配賦スルコトアルヘシ

第十二條 士官候補生ヲ各兵科聯(大)隊ニ配賦スルニハ左ノ四項ヲ願慮スヘシ

其一 本人ノ希望

其二 軍隊ノ必要

其三 學術優等ノ者ハ各兵科聯(大)隊ニ平等ニ配賦スヘキ事

其四 砲、工兵科聯(大)隊ニ配賦スヘキ者ハ數學優等ナル事

第十三條 士官候補生ハ志願兵トシテ入隊ノ日ヨリ兵籍ニ編入シ陸軍一定ノ規則ニ

依り服役セシム

第十四條 士官候補生ハ士官學校分遣前概テ一箇年幼年生徒出身ノ軍隊ニ在テ下士者ハ概テ六箇月

兵卒ノ勤務雜役ヲヲ習得スルコトヲ要ス

第十五條 士官候補生入隊ノ上ハ聯(大)隊長ハ部下聯(大)隊中ノ某中隊ヲ撰ヒ之ニ編入シ該中隊長ヲシテ訓育ヲ掌リ諸勤務ノ訓練ニ任セシム

第十六條 士官候補生軍事學ノ教授ハ聯(大)隊長部下大尉若クハ中尉ノ内一名ヲシテ之ニ任セシム

第十七條 聯(大)隊長ハ士官候補生ノ教育上ニ就テ總テ擔保ノ責ニ任ス

第十八條 士官候補生中幼年生徒出身ノ者ハ入隊後直チニ上等兵ノ階級ニ進メ二箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ六箇月ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ其他ノ者ハ入隊後直チ

ニ一等卒ノ階級ニ進メ六箇月ノ後ハ上等兵ノ階級ニ八箇月ノ後ハ二等軍曹ノ階級ニ一箇年ノ後ハ一等軍曹ノ階級ニ進ムルコトヲ得但各階級ニ於テ本官等下士兵卒ノ上位ニ在ルモノトス

第十九條 士官候補生ノ被服裝具等諸給與ハ本人ノ階級ニ應シ總テ下士兵卒同様ニシテ官給トス其居室ハ一般下士兵卒ト混同スルコトナク別ニ一室ヲ與ヘ數名ノ候補生ヲ同居セシムヘシ但被服ニハ特別ノ徽章ヲ附シ將校ノ公會等ニ於テハ之ニ列席セシムルコトヲ要ス

第二十條 士官候補生ハ室内其他諸物品ノ掃除及馬具、馬匹等掃拭ノ爲メニハ兵卒ヲ使役スルコトヲ得但馬具、馬匹等ノ掃拭ヲ習得スル爲メニハ自ラ之ヲ爲サシムヘシ

第二十一條 士官候補生諸勤務ノ訓練ヲ終レハ之ニ任シタル中隊長ハ士官候補生諸勤務ヲ習得シタル保證書又軍事學ノ教授ニ任シタル士官ハ其教授成績ノ報告書ヲ聯(大)隊長ニ進達シ聯(大)隊長ハ之ヲ審閱シ更ニ教育ノ完全ナルコトヲ確認シ都督師團長步兵ハ旅團長ヲ經テニ上申ス都督師團長各兵科ノ連名簿ヲ製シ之ニ聯(大)隊長ヨリ出ス所ノ書類ヲ添ヘ監軍ニ進達ス可シ

第二十二條 監軍ハ前條ノ書類ニ依リ士官候補生ノ士官學校ニ入校セシムヘキ者ヲ定メ都督師團長ヲ經テ之ヲ命スヘシ

第二十三條 士官候補生士官學校修學ヲ終リ卒業試験ニ及第シ歸隊セシ者ハ曹長ノ階級ニ進メ某中隊ニ在テ士官ノ勤務ヲ習得セシム但其位置ハ曹長ノ上位トス之ヲ見習士官ト云フ

第二十四條 見習士官ノ教育ハ聯(大)隊長自ラ其責ニ任シ殊ニ諸種ノ演習等精密且著實ニ實施セシメ以テ其學力ヲ實際ニ應用進歩セシムルコトヲ務ムヘシ

第二十五條 見習士官ノ刀、刀緒、刀帶、背囊、脚絆等ハ士官ト同一ノモノヲ給ス

第二十六條 見習士官ヲ將校ニ選舉スルニハ聯(大)隊長先ツ中隊長ヨリ本人ノ教育完全ニシテ將校タルヲ得ヘキ保證書ヲ得尙ホ聯(大)隊長モ亦自ラ是認シタル後始メテ聯(大)隊ノ將校會議ニ付ス

第二十七條 將校會議ハ見習士官ヲ將校ト爲スノ可否ヲ議決スル所トス故ニ各將校ハ可否ヲ答テ自ラ選舉報告書ニ記入シ自己ノ姓名ヲ署スヘシ但見習士官所屬ノ中隊長ニシテ保證書ヲ記載シタル者ハ選舉報告ヲ爲スノ限ニアラス

第二十八條 將校會議ニ於テ將校ノ答皆可ナル者ハ聯(大)隊長ハ其選舉報告書ヲ一

表ト爲シテ選舉報告表ヲ作り之ニ順序ヲ定メタル連名簿ヲ添ヘ少尉ノ資格ヲ備フルコトヲ都督師團長步兵ハ旅團ニ上申ス都督師團長ハ之ヲ監軍ニ進達シ監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

若シ可答多數ナルモ幾多ノ否答アルモノハ其理由ヲ選舉報告表ニ記入シテ上申スルコト前項ニ同シ

之ニ反シ否答多數ナル者ハ選舉報告表ヲ添ヘ否決ノ理由ヲ上申ス但其手續ハ本條例第三十二條ニ依ル

第二十九條 士官候補生諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サル者又ハ士官學校條例第二十一條其一其五ニ據リ退校歸隊セシ者ニシテ尙ホ望ミアル者ハ一回限り次ノ入校期マテ所屬隊ニ止マラシムルコトヲ得但

聯(大)隊長ハ其事由ヲ悉シ都督師團長步兵ハ旅團ニ上申シ其認可ヲ經ヘシ都督師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ申報ス監軍ハ之ヲ陸軍大臣ニ移ス

第三十條 前條ニ該ル者ノ士官學校入校手續ハ本條例第二十一條及第二十二條ニ依ル

第三十一條 士官候補生ハ情願ヲ以テ之ヲ免セサルモノトス

第三十二條 士官候補生ニシテ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ル者アル時ハ聯(大)隊長其事由ヲ悉シテ都督師團長步兵ハ旅團ニ上申シ都督師團長ハ狀ヲ具シ監軍ニ進達シ監軍之ヲ裁定シ其處分ヲ爲ス

其一 品行不正若クハ軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其二 學力乏シクシテ將校生徒ニ適セサル者

- 其二 將校タルノ才能ニ乏シキ者
- 其四 上官ヨリ認メラレテ士官候補生タルヲ得ヘカラサル者
- 其五 諸勤務ノ習得充分ノ結果ヲ得ス若クハ疾病ノ爲メ士官學校ヘ分遣シ得サルモノニシテ後來望ミナキ者及疾病若クハ傷痕ニ因リ一時服役ニ堪ヘサル者
- 其六 士官學校條例第二十二條其一其五ニ依リ退校歸隊シテ後來望ミナキ者
- 其七 士官學校條例第二十一條其二其三其四ニ依リ退校歸隊セシ者
- 其八 卒業試験ヲ受クルヲ得スシテ歸隊セシ者
- 其九 卒業試験ニ落第シテ歸隊セシ者
- 其十 本條例第二十三條ノモノニシテ本條其一乃至其四ニ該ル者
- 其十一 本條例第二十八條ノ第三項ニ該ル者

其十二 疾病若クハ傷痕ニ因リ常備後備ノ服役ニ堪ヘサル者及永久服役ニ堪ヘサル者

第三十三條 前條其一乃至其十一ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免シ其階級ニ應シ本官ニ任シ又ハ兵卒ト爲シ豫備役ニ編入シ其十二ニ該ル者ハ士官候補生ヲ免ス

附則

第二十四條 下士兵卒^{一年志願兵ニアラサル者}及教導團生徒ハ當分士官候補生ヲ志願スルコトヲ得但其志願手續ハ本條例中一年志願兵ノ例ニ依ル

第二十五條 屯田歩兵科ノ士官ハ當分札幌農學校兵科ヲ卒業シタル者ニシテ見習士官ヲ命シ六箇月以上隊務ニ服シタル者ヲ以テ補充スルコトヲ得

見習士官ノ取扱并士官ノ任用ノ手續等ハ第二十三條乃至第二十八條及第三十二條

ノ例ニ準ス但第二十八條及第三十二條ノ書類ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ其第三十二條ニ該ル者ハ陸軍大臣ニ於テ見習士官ヲ免ス

朕陸軍幼年學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十二月十六日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第二百三十四號 (官報十二月十八日)

陸軍幼年學校條例

第一條 陸軍幼年學校ハ陸軍幼年生徒ニ概テ尋常中學ト同一ナル教授並ニ軍人ノ豫備教育ヲ與ヘ陸軍各兵科ノ士官候補生ト爲スヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

- | | |
|-------|-------|
| 校長 | 佐官 |
| 副官 | 大(中)尉 |
| 教官 | 陸軍教授 |
| 馬術教官 | 騎兵中尉 |
| 中隊長 | 大尉中隊 |
| 中隊附士官 | 中尉 |

軍醫

軍吏

第三條 校長ハ監軍ニ隸シ校務ヲ總理シ生徒教育ノ責ニ任ス

第四條 副官ハ校中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ下士及陸軍屬ヲ置ク

第五條 教官ハ各學科ノ教授ヲ分擔ス尙ホ教授ノ外助教ヲ置ク

第六條 馬術教官ハ生徒馬術ノ教練ニ任ス其下ニ騎兵科下士ヲ置ク

第七條 中隊長ハ專ラ訓育ノ事ヲ掌リ中隊附士官ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシメ生徒

ヲシテ諸勤務ニ熟セシメ且内務及室内ノ整頓並ニ生徒ノ行狀ヲ監視スルヲ任トス

第八條 中隊附士官ハ中隊長ノ下ニ在テ生徒訓育ノ諸科目ヲ分擔シ殊ニ生徒ノ身上

ニ就テハ日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルヲ任トス

第九條 中隊附士官ハ總テ校内ノ官舎ニ居住シ生徒ノ監視ニ便ナラシム

第十條 各中隊ニ下副官及下士ヲ置キ下副官ハ中隊ノ庶務ヲ整理シ下士ハ武器、被服、諸給與、炊爨等ノ事ヲ掌リ且ツ劔術及體操ノ助教ヲ分擔ス

第十一條 軍醫ノ下ニ看護長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第十二條 生徒ハ官費、半官費、自費ノ三種ニ分ツ

官費生徒ハ一切ノ經費ヲ官給シ且手當金ヲ給ス半官費生徒ハ小被服賄料ノ經費自費生徒ハ被服糧食一切ノ經費ヲ納メシム其金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條 戰死シタル平時公務ノ爲メ死亡シ將校同相當官、高等文官ノ孤兒ハ官費

生徒トス

第十四條 前條ノ外官費生徒、半官費生徒、自費生徒ト爲スヘキ者ハ監軍之ヲ裁定ス

第十五條 前條ノ區分ハ專ラ資産ノ多少ヲ察知シ之ニ應シテ取捨スヘシト雖モ仍ホ左ニ列記スル者ハ特ニ顧慮スヘシ

其一 在職士官ノ子弟

其二 現職ニアラサル上長官ノ子弟

其三 死亡シタル將校同相當官ノ子弟

其四 前三項ニ均シキ高等文官ノ子弟

其五 在職上長官現職ニアラサル將官同相當官ノ子弟

其六 前項ニ均シキ高等文官ノ子弟

第十六條 生徒修學期限ハ三箇年トス而シテ其一年期ハ九月上旬ニ始マリ翌年七月上旬ニ終ル但最終ノ二年期ハ翌年五月中旬ニ終ル

第十七條 生徒ハ之ヲ二中隊ニ編成ス

第十八條 生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其課程ハ幼年學校長案ヲ具シ監軍ニ進達シ其認可ヲ得テ之ヲ定ム

第十九條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サス

第二十條 第二年生徒中特ニ學術ニ長シ品行方正ニシテ他ノ望標トナルモノ若干員ヲ撰拔シ舍長ヲ命シ特別ノ徽章ヲ附セシム

第二十一條 校長ハ學期末ニ於テ生徒ノ卒業試験ヲ施行シ各教官及中隊長ヲ集メ會議ヲ開キ全學期中ノ諸結果ト卒業試験ノ成績ヲ對照シ序列ヲ定メ考科表ヲ製シ監軍ニ進達シ監軍ノ認可ヲ得テ教則ニ定ムル所ノ課程卒業ノ證書ヲ附與ス其學術品行共ニ優等ナル者ハ同時ニ二等軍曹ノ階級ニ進ルコトヲ得

第二十二條 生徒中定期内ニ卒業シ得サル者ト雖モ尙ホ望ミアル者ハ定期外一箇年延期修學セシムルコトヲ得

第二十三條 生徒中左ノ事項ニ該ル者ハ退校ヒシム

其一 學術ノ修得全カラス卒業ノ目途ナキ者

其二 軍紀ヲ紊リ又ハ屢々法則ヲ犯ス者

其三 品行不正ニシテ悔悟ノ目途ナキ者

其四 病ニ由リ卒業ノ目途ナキ者

但自己ノ不攝生ヨリ生セサル長病ニシテ尙ホ卒業ノ見込アル者ハ特別ノ詮議ニ付スルコトヲ得

第二十四條 生徒中全學期ヲ終ルモ病氣其他ノ事故ニ因リ士官候補生ト爲スヲ得サ

ル者ハ單ニ教則卒業ノ證書ヲ附與シ退校セシム

第二十五條 前三條ニ該ル者アルトキハ幼年學校長事由ヲ悉シ監軍ニ上申シ監軍之ヲ裁定處分ス

第二十六條 毎年七月中旬ヨリ八月下旬ノ間ニ於テ凡ソ三十日間生徒ニ休暇ヲ與フ此間校附諸官ハ教科書編纂訂正等ノ事ニ服ス

第二十七條 毎年六月上旬ヨリ八月下旬マテ中隊附士官若干ヲ師團本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲナサシム

第二十八條 本校ニ所要ノ馬匹及材料ハ士官學校所要ノモノヲ兼用ス

朕陸軍幼年學校生徒召募條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月四日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第九十號

陸軍幼年學校生徒召募條例

第一條 陸軍幼年學校生徒ハ陸軍出身志願ノ者ニシテ年齡十五年以上十八年以下ノ者ヲ召募シ身體檢査及入學試験ノ成績ニ依リ必要ノ人員ヲ採用スルモノトス

第二條 毎年採用スヘキ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 生徒召募ノ試験格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 生徒タランコトヲ志願スル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ本籍ノ地方長官寄留ノ者ハ其

地方長官ニ差出シ地方長官ハ各志願者ノ身分、財産、教育、性質、品行等詳細之ヲ取調

ヘ其證明書ヲ作り之ヲ願書ニ添ヘ其地所管師團長ニ送付ス可シ師團長ハ之ヲ監軍ニ進達ス

第五條 志願者ハ前條ノ手續ヲ爲シタル後試験ヲ爲ス之カ爲メ監軍ハ志願者ノ人名

書ヲ師團長近衛師團長ヲ除クニ下シ師團長近衛師團長ヲ除クハ之ヲ陸軍將校生徒試験臨時委員ニ下

付シ該委員ヲ各試験場ニ派遣シテ試験ヲ施行セシム

第六條 師團長近衛師團長ヲ除クハ試験前ニ於テ身體檢査ノ時日ヲ定メ之ヲ地方長官ニ通達

シ志願者ヲ檢査地ニ召集シ陸軍醫官ヲシテ身體檢査ヲ爲サシメ合格者ノ人名書ヲ

陸軍幼年學校生徒召募條例自第三條至第六條

二七三

廿五年十月十六號參看

廿七年二月九號參看

陸軍將校生徒試験臨時委員到着ノ時ニ下付ス

陸軍將校生徒試験臨時委員ハ試験ノ上其書類ヲ師團長近衛師團長ヲ除クニ進達シ師團長近衛師團長ヲ除クハ之ヲ監軍ニ進達ス

第七條 監軍ハ本條例第四條ノ書類ト第六條試験成績トニ依リ之ヲ裁定シ入校ヲ命

ス

朕陸軍一年志願兵條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ニ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年七月十九日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第七十二號 (官報七月二十日)

陸軍一年志願兵條例

廿八年三月
勅令第三十四號
參看

第一條 徵兵令第十三條ニ據リ一年志願兵トナル者ハ居住地師管內ニ於テ服役スハ

キ兵科及衛戍地ヲ選ヌコトヲ得但第四條ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第二條 一年志願兵ニハ所屬隊ヨリ糧食、被服、裝具、兵器、彈藥ノ現品ヲ給シ被服費、

裝具費彈藥費及兵器修理費トシテ金六十二圓糧食費トシテ金二十八圓ヲ納メシム

陸軍一年志願兵條例第一條第二條

二七五

又騎兵科ニ入ル者ニハ馬匹ヲ貸與シ馬糧費、裝蹄費、剃毛費及馬藥費トシテ更ニ金
七十五圓ヲ納メシム以上ノ金額ニテ不足ヲ生スルトキハ之ヲ追徴シ殘餘アルトキ
ハ之ヲ還付シ兵器ハ本人滿期ノ際之ヲ返納セシム

第三條 一年志願兵ハ在營セシムルヲ例トス但本人ノ願ニ依リ聯隊長聯隊長ヲ成サハ
ル隊ニ在テハ
該隊長以
下同シ 外泊ヲ許シ通勤セシムルコトヲ得

第四條 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ハ糧食費外ノ費用ヲ官給ス

第五條 一年志願兵ハ總テ無給料トス其檢査往復並ニ入營退營旅費亦自辨トス

第六條 官費服役ヲ許スヘキ一年志願兵ノ定員ハ毎年陸軍大臣之ヲ定ム

官費服役出願者前項ノ定員ヲ超過スルトキハ年少ノ者ヨリ順次次年ニ廻シ入隊セ

第七條 一年志願兵ハ現役滿期ノ後六箇年四箇月間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セ

シム

豫備役後備役中犯罪ノ爲メ又ハ正當ノ事由丈クシテ召集ヲ缺キタル者其召集ヲ缺

キタル年ハ服役年期ニ算セス

第八條 一年志願兵志願者ハ其願書ヲ一月三十一日迄ニ本籍ノ島司郡市長東京京都
大坂ノ三

市及北海道函館區ニ
在テハ區長以下同シヲ經テ自費服役者ニ在テハ服役スヘキ衛戍地所管ノ旅團長

東京衛戍地ニ在テニ官費服役者ニ在テハ居住地所管ノ旅團長ニ差出スヘシ但徵兵

ハ步兵第一旅團長

令第十三條ノ學校卒業者ハ卒業證書寫及戶主ニアラサルモノハ戶主二十歲未滿者

ハ戶主若クハ後見人ノ承認書ヲ添附スルヲ要ス

第九條 前條ノ志願者ニシテ一月三十一日迄ニ徵兵令第十三條ノ學校ヲ卒業セサル者ハ其年十月三十一日迄ニ卒業スヘキ者ニ限リ學校長ノ證明書ヲ以テ卒業證書寫ニ換フルヲ得但卒業ノ上ハ直ニ卒業證書寫ヲ添ヘ旅團長ニ届出ヘシ

第十條 旅團長ハ第八條ノ志願者中學術試験ヲ受クヘキ者ノ人名書ニ通テ製シ師團長ニ呈スヘシ師團長ハ其一通ヲ監軍ニ呈シ一通ヲ身體検査ヲ爲サシムヘキ軍醫ニ下付スルモノトス

第十一條 一年志願兵ノ學術試験格例ハ毎年監軍之ヲ定メ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 師團長ハ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査時日ヲ定メ府縣知事ニ通達シ本人ヲ検査地ニ召集ス

第十三條 師團長ハ軍醫ヲシテ學術試験ヲ受クヘキ者ノ身體検査ヲ爲サシメ其合格

廿七年二月
勅令第二
八號參看

者ハ陸軍將校生徒試験臨時委員ヲシテ學術試験ヲ爲サシメ試験書類ヲ旅團長ニ交付ス

第十四條 旅團長ハ試験ノ成績ニ據リ及第落第ヲ定メ及第者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ落第者ニハ其旨ヲ通知スヘシ

第十五條 第八條但書ノ卒業者及第九條ニ當ル者ハ通常ノ徵兵ト同時ニ身體検査ヲ爲シ合格者ニハ一年志願兵認定證書ヲ付與シ不合格者ニハ其旨ヲ通知スヘシ但第九條ニ當ル者ノ認定證書ハ同條但書ノ届出ヲ爲シタルトキ之ヲ付與スルモノトス

第十六條 第四條ニ當ル者ハ認定證書ノ外別ニ官費服役證書ヲ付與スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ入隊期日ハ毎年十二月一日トス

第十八條 一年志願兵認定證書ヲ受ケタル者ハ入隊スヘキ年ノ十一月三十日迄ニ第

陸軍一年志願兵條例自第十四條至第十六條

二條若クハ第四條ノ金額ヲ所屬隊ニ納付スヘシ但入隊前外泊ノ許可ヲ受ケタル者ハ第二條ノ糧食費ヲ控除シ納付スヘシ

第十七條 一年志願兵ノ教育ニ關シテハ聯隊長其責ニ任スルモノトス

第十八條 一年志願兵中勤務熟達品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ材幹アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ通常教育ノ外特別ノ教育ヲ授ケ更ニ二箇月ノ後上等兵ト爲シ下士ノ勤務ヲ爲サシメ更ニ三箇月ノ後二等軍曹ノ階級ニ進メ諸勤務ヲ練習セシム

其服役滿期ニ際シテハ聯隊長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其成績ヲ具シ師團長步兵ニ在テハ旅團長ヲ經テ認可ヲ受ケ及第者ニハ終末試験及第證書ヲ授與シ一等軍曹ニ其落第者ハ二等軍曹ニ任シ豫備役ニ編入ス

第十九條 前條及第二十二條ノ選ニ當ラサル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ六箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ三箇月ノ後上等兵ト爲シ通常教育ノ外下士タルノ教育ヲ授ケ服役滿期ノ際其成績優等ノ者ハ師團長ノ認可ヲ受ケ二等軍曹ニ任シ之ニ亞ク者ハ下士適任證書ヲ付與シ若クハ之ヲ付與セシテ豫備役ニ編入ス

第二十條 第十八條及第二十二條ニ當ル者ニシテ疾病其他ノ事故ニ由リ豫備士官ト爲スノ見込ナキニ至リタルトキハ第十九條ノ例ニ準シ取扱フモノトス

第二十一條 醫學、藥學、理財學若クハ商業學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團ニ獸醫學ノ卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野團司令部所在地ノ步兵隊ニ限ル
戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ於テ前半年間隊列勤務ヲ爲シ後半年ノ初ニ於テ軍醫生、藥劑生、獸醫生又ハ軍吏生ト爲リ各専門ノ勤務ヲ練習スルコトヲ得志願ノ者ハ入

隊ノ際其卒業證書ヲ添へ出願スヘシ

前項ノ獸醫生タラントスル者ハ第二條ノ馬匹ニ關スル納金ヲ要セス

第二十二條 前條ノ志願者中勤務勉勵品行方正ニシテ豫備士官タルヲ得ヘキ志操アル者ハ入隊ノ日ヨリ起算シ四箇月ノ後一等卒ヲ命シ更ニ二箇月ノ後上等兵ヲ命スヘシ之ニ軍醫生、藥劑生、獸醫生、軍吏生ヲ命スルニハ師團監督部長若クハ軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受クルモノトス但軍吏生ト爲シタル者ハ下士ノ勤務ヲ爲サシメ上等兵ヲ命シタルトキヨリ更ニ三箇月ノ後二等書記ノ階級ニ進ムヘシ

第二十三條 軍醫生ノ教育ハ該隊上級醫官、藥劑生ノ教育ハ衛戍病院長、獸醫生ノ教育ハ該隊上級ノ獸醫官、軍吏生ノ教育ハ師團監督部長各其責ニ任スルモノトス

第二十四條 軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ曹長同等ノ取扱ヲ受クルモノトス

第二十五條 軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ト爲シタル者ハ服役滿期ノ際師團監督部長、軍醫長若クハ獸醫長終末試験委員ヲシテ第二十六條ノ格例ニ從ヒ終末試験ヲ爲サシメ其及第者ニハ軍醫長、獸醫長ハ其成績ヲ具シ師團長ノ認可ヲ受ケ終末試験及第證書ヲ授與シ軍吏生ニ在テハ二等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

其落第者ニ在テハ軍醫生ハ三等看護長ニ藥劑生ハ三等調劑手ニ獸醫生ハ蹄鐵工下長ニ軍吏生ハ三等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

前二項ニ於ル下士ノ任官ハ軍醫生、藥劑生ニ在テハ軍醫長ヨリ陸軍省醫務局長、獸醫生ニ在テハ當該隊長ヨリ師團長、軍吏生ニ在テハ監督部長ヨリ陸軍省經理局長ノ認可ヲ受クルモノトス

第二十六條 師團長及師團監督部長ハ毎年一年志願兵ノ終末試験格例ヲ定メ豫メ之

ヲ告達ス

第二十七條 終末試験委員ハ聯隊長、監督部長之ヲ編成ス

軍醫生、藥劑生、獸醫生ノ終末試験委員ハ師團長之ヲ編成シ軍醫長及獸醫長ノ指揮ニ屬ス

第二十八條 第十八條及第二十二條ニ依リ上等兵ト爲シタル者ハ成ルヘク兵卒ト居室ヲ異ニシ將校ト共ニ會食セシムヘシ

第二十九條 一年志願兵ノ服制ハ別ニ定ムルモノ、外其階級ニ應シ各兵科ノ下士兵卒ト同一トス但軍醫生、藥劑生、獸醫生ハ該隊曹長軍吏生ニシテ三等書記ノ階級ニ進メタル者ハ該隊二等軍曹ト同一トス

軍醫生、藥劑生、獸醫生軍吏生ハ之ヲ命シタル日ヨリ襟ニ特別ノ徽章ヲ附ス

第三十條 戰時若クハ事變ニ際シテハ一年志願兵ト雖モ通常ノ現役勤務ニ服セシムルコトアルヘシ

第三十一條 一年志願兵入隊前禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ死亡シタルトキハ其親族ヨリ旅團長ニ届出ヘシ

第三十二條 一年志願兵認定證書ヲ所持スル者疾病其他止ヲ得サル事故ニ由リ十二月一日ニ入隊シ難キトキハ證明書類ヲ添へ入隊延期ヲ旅團長ニ出願スヘシ

前項ノ事故アル者十二月三十一日ヲ過ルモ入隊シ難シト認ムルトキハ旅團長之ヲ次年回シト爲シ聯隊長及本人ニ通知スヘシ

第三十三條 一年志願兵入隊シタルトキ若クハ次年回シト爲リタルトキハ本籍所管大隊區徴兵官又ハ警備隊區徴兵官ニ届出ヘシ

第三十四條 一年志願兵認定證書ヲ得タル者正當ノ事由ナクシテ其年十二月一日ニ入隊セサルトキハ一年志願兵タルノ資格ヲ失フモノトス

第二十五條 徵兵事務條例第五十三條第六十五條及第六十六條ハ一年志願兵ニモ亦適用ス但其豫備役ニ編入スヘキ者ハ國民兵役ニ編入ス

附則

第三十六條 明治二十七年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ豫備役後備役年期ハ第七條ニ依ル但明治二十四年以前一年志願兵トシテ服役シタル者ノ後備役年期ハ豫備役年期ヲ通シテ十一箇年四箇月トス

陸軍省令第十號

陸軍一年志願兵條例施行細則左ノ通改正ス

明治二十六年七月二十二日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

陸軍一年志願兵條例施行細則

第一條 條例第二條ノ所屬隊ヨリ給スル被服裝具ノ現品左ノ如シ

- 一 第一種帽 前立共
- 二 第二種帽
- 三 第一種衣袴
- 四 第二種衣袴

- 五 夏衣袴二著
- 六 日覆
- 七 外套
- 八 脚絆
- 九 第一種手牒
- 十 背囊
- 十一 被服手入具
- 十二 飯盒
- 十三 水筒
- 十四 寢具

第二條 糧食費自辨ノ者ハ行軍若クハ野外演習中ノ糧食費亦自辨トス

第三條 條例第八條ノ願書ハ附錄第一第二様式ニ承認書ハ第三様式ニ證明書ハ第四様式ニ依リ之ヲ作ル可シ

第四條 條例第十三條ノ身體檢査終レハ軍醫ハ其成績ヲ陸軍將校生徒試驗臨時委員ニ通知シ條例第十條ノ人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格檢査表ヲ添ヘ師團長ニ報告シ師團長ハ之ヲ條例第八條ノ旅團長ニ交付ス
旅團長ハ其身體檢査ニ不合格ノ者二十歲未滿ノ者ヲ除ク體格檢査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官ニ送付ス可シ

第五條 條例第十四條第二項ニ依リ身體檢査ヲ爲ス可キ者ノ人名ハ旅團長ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ達シ同官之ヲ島司郡市長ニ通達シ島司郡市長ハ檢

查ノ時日及場所ヲ告示ス可シ

居住地旅管外ノ衛戍地ニ於テ服役センコトヲ志願スル者ノ身體検査ハ衛戍地所管ノ旅團長東京衛戍地ニ在テヨリ居住地所管ノ旅團長ニ協議シテ之ヲ行フ可シ

事故アリテ指定ノ検査場ニ出頭シ難キ者ハ願ニ依リ他ノ徵兵署若クハ検査所ニ於テ身體検査ヲ受クルコトヲ得

前項ノ出願者アルトキハ甲乙大隊區司令官又ハ警備隊區司令官協議ノ上検査時日及場所ヲ定メ本人ニ達ス可シ

第六條 前條ノ身體検査終ル後大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其人名書ニ不參其他ノ事由ヲ記註シ體格検査表ヲ添ヘ旅團長ニ呈ス

旅團長ハ其身體検査ニ不合格ノ者二十歳未滿者ヲ除ク體格検査表ヲ本籍地ノ旅管徵兵官

ニ送付ス可シ

第七條 第四條及第六條ノ身體検査不合格ノ者ハ旅管徵兵官徵集免除又ハ兵役免除ノ處分ヲ爲シ其一時徵集ニ適セサル者ハ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ヲシテ徵集延期ノ處分ヲ爲サシム可シ

第八條 旅團長ハ條例第十三條及第十四條第二項ノ検査ニ不參セル者並學術試験ニ落第セシ者二十歳未滿者ヲ除クヲ本籍地ノ大隊區徵兵官又ハ警備隊區徵兵官ニ通知ス可シ

第九條 條例第十四條ノ一年志願兵認定證書ハ附錄第五様式ニ官費服役證書ハ第六様式ニ依リ作ル可シ但條例第六條第二項ニ依リ次年回シト爲ス可キ者ハ官費服役證書ノ餘白ニ其旨ヲ記載ス可シ

第十條 旅團長ハ同兵種二隊以上アル衛戍地ニ服役セントスル者ノ隊籍ヲ定ムルニ

二十八年
四月省令
第五號參
看

ハ成ル可ク之ヲ各隊ニ平均ス可シ

官費服役者中醫學、藥學、理財學若クハ商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ步兵隊、理財學、商業學卒業證書ヲ所持スル者ハ師團ニ獸醫學卒業證書ヲ所持スル者ハ騎兵隊、野戰砲兵隊又ハ輜重兵隊ニ配付ス可シ

第十一條 旅團長ハ一年志願兵認定證書ヲ付與シタル者ヲ自費服役、官費服役、次年回シ等ニ區別シ其人名書ニ體格検査表ヲ添ヘ當該聯隊長聯隊長ヲ爲サハル隊ニ在下付シ又其人員ヲ師團長ニ報告ス可シテハ該隊長以下同シ

第十二條 聯隊長ハ前條ノ一年志願兵ニシテ十二月一日ニ入隊セサル者アルトキハ其人名ヲ旅團長ニ報告ス可シ

第十三條 條例第三十一條第三十二條第二項第三十四條及入隊前第二十五條ニ當ル

者アルトキハ旅團長ハ其旨ヲ聯隊長ニ通知シ師團長ニ報告ス可シ但二十歳以上ノ者ニ在テハ本籍地ノ大隊區徵兵官警備隊區徵兵官ニモ亦通知ス可シ

前項ノ者官費服役者ナルトキハ條例第六條第二項ニ依リ次年回シト爲シタル者ヲ繰上ケ十二月三十一日迄ニ入隊セシムルコトヲ得

第十四條 一年志願兵徵募事務終結後師團長ハ附錄第七様式ニ依リ一年志願兵人員表ヲ作り翌年一月十五日迄ニ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十五條 條例第二十一條ニ依リ軍醫生、藥劑生、獸醫生及軍吏生ヲ志願スル者アルトキハ聯隊長其願書及卒業證書寫ヲ師團監督部長若クハ軍醫長若クハ獸醫長ニ送附シ監督部長、軍醫長、獸醫長ヨリ師團長ノ認可ヲ受ケ後半年ノ初ニ於テ聯隊長ヲ經由シ之ヲ命スルモノトス

藥劑生ハ衛戍病院ニ軍吏生ハ師團監督部ニ派遣シ勤務ヲ練習セシムルモノトス

第十六條 軍醫生、藥劑生、軍吏生ト爲シタル者ハ貸與セシ兵器ヲ返納セシメ更ニ徒

歩刀ヲ給ス獸醫生ト爲シタル者ハ軍刀或ハ砲兵刀ヲ除クノ外兵器ヲ返納セシム

第十七條 師團長ハ一年志願兵終末試験終リタルトキ附録第八様式ニ依リ成績表ヲ

作り陸軍大臣ニ報告ス可シ

第十八條 一年志願兵終末試験及第證書ハ附録第九様式ニ依リ各部各隊ニ於テ製ス

可シ

第十九條 一年志願兵入隊前轉任其他止ヲ得サル事故ニ依リ隊籍變更ヲ願出ル者ア

ルトキハ旅團長之ヲ許可スルコトヲ得但所轄外ニ係ルモノハ豫メ當該旅團長ト協

議スルヲ要ス

第二十條 一年志願兵現役ヲ免シ若クハ死亡シタルトキハ實費ヲ精算シ殘金アレハ之ヲ還付ス

第一様式

一年志願兵服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ服役中ノ費用全額ヲ自辨シ何地何兵隊ニ於テ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候間御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(士)族(平民)

年月日

氏

名印

年月日生

歩兵第何旅團長(爵)氏名殿

條例第九條ニ當ル者ハ「卒業證書寫」ノ五字ヲ「長證明書」ノ四字ニ換ヘ戶主ニアラサル者及二十歳未滿ノ者ハ「相添」ノ上ニ「戶主(後見人)ノ承認書」ノ字ヲ挿入シ學術試験ヲ受クヘキ者ハ「御認可」以下ヲ「學術御試験」ノ上御認可相成度(戶主「後見人」ノ承認書相添)此段奉願候也」ニ作ル

第二様式

第二樣式

一年志願兵官費服役願

私儀徵兵令第十三條ニ依リ一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用全額自辨ス可キ資力無之候ニ付糧食費ヲ自辨仕候間其他ハ官費ヲ以テ服役ノ儀御認可相成度別紙某學校卒業證書寫相添此段奉願候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
華(土)族(平民)

年月日

氏

名印

年月日生

步兵第何旅團長(爵)氏名殿

第一樣式欄外ノ記注ハ本樣式ニモ適用ス

第三樣式

一年志願兵服役承認書

氏名

右者一年志願兵トシテ服役致度志願ニ候處服役中ノ費用金何圓無相違上納可爲致候也

府(縣)郡(市)町(村)番地住
府(縣)郡(市)町(村)番地寄留
戶(注)後見人

年月日

氏

名印

條例第四條ニ當ル者ハ本文「金何圓無相違上納」ノ八字ヲ「全額自辨スヘキ資力無之候得共糧食費金二十八圓ハ無相違自辨」ノ字ニ換フ

第四樣式

第三樣式

身元證明書

氏名

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

一 何年何月罰金何圓ニ處セラル或ハ何年何月何々ノ罰ニ處セラル等

一 戸主或ハ本人何種公債證書或ハ株券金額何千何百圓ヲ所有スル等

一 戸主或ハ本人官廳或ハ會社等ヨリ受クル給料何千何百圓等

一 何々ノ所得年額何千何百圓等

右相違無之ニ付一年志願兵服役中ノ費用全額ヲ自辨シ得ルコトヲ證明ス

年月日

府(縣)島司(郡)市長 氏名

條例第四條ニ當ル者ハ「右相違無之」云々ヲ「右相違無之候得共一家ノ生計ヲ立テ餘裕無之ニ付糧食費ノ外自辨シ能ハサルコトヲ證明ス」ニ作ル

第五様式

第 號

一年志願兵認定證書

府(縣)族籍

氏名

年月日生

陸軍一年志願兵タル資格ヲ具有スル者ト認定ス
但何兵第何聯「大隊」ニ於テ服役ス可シ

年月日

職(爵)氏

名印

用紙十三行半葉野紙

第五様式

年月日
職官位 勳爵氏 名

朕陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十五日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第四十七號 (官報廿三年三月廿五日)

陸軍教導團條例

廿七年七月勅令第百十九號參看

第一條 陸軍教導團ハ華士族平民中歩兵、騎兵、砲兵野戰、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シテ生徒ト爲シ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 毎年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 本團ニ本部、歩兵ニ中隊、騎兵、砲兵野戰、工兵、輜重兵科ノ生徒隊并病院ヲ

置ク

第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長 歩兵佐官

廿六年十二月勅令第二百三十六號參看

陸軍教導團條例自第一條至第四條

年月日
職官位 勳賞氏 名國

朕陸軍教導團條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月二十五日

陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第四十七號 (官報廿三年三月廿五日)

陸軍教導團條例

廿七年七月
勅令第
百十九號
參看

第一條 陸軍教導團ハ華士族平民中歩兵、騎兵、砲兵野戰、工兵、輜重兵科下士ニ出身志願ノ者ヲ撰拔シテ生徒ト爲シ下士タルニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 毎年採用ス可キ生徒ノ人員ハ其時々陸軍大臣之ヲ定メ監軍ニ移ス

第三條 本團ニ本部、歩兵ニ中隊、騎兵、砲兵野戰、工兵、輜重兵科ノ生徒隊并病院ヲ

置ク

第四條 本團ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

團長 歩兵佐官

廿六年十
二月勅令
第二百三
十六號參
看

陸軍教導團條例自第一條至第四條

三〇七

副官	大(中)尉
病院長	二等軍醫正
生徒隊長及中隊長	大尉
生徒隊附	中尉
步兵生徒隊副官	中尉
軍醫	
藥劑官	
獸醫	
軍吏	

第五條 團長ハ監軍ニ隸シ本團ノ軍紀風紀ヲ維持シ教育一般ノ事ヲ總括シ且經理事

務、召募事務及人事ヲ統轄シ步兵生徒隊長ヲ兼ス

第六條 副官ハ團中ノ庶務ヲ掌リ其下ニ准士官下士及陸軍屬若干員ヲ置ク

第七條 病院長ノ職務ハ別ニ定ムル所ニ據ル

第八條 軍醫ノ下ニ看護長藥劑官ノ下ニ調劑手獸醫ノ下ニ蹄鉄工(下)長軍吏ノ下ニ書記ヲ置ク

第九條 騎兵、砲兵^{野戰}、工兵、輜重兵科ノ生徒隊長ハ團長ニ隸スト雖モ各科専門ノ教育ニ就テハ尙ホ當該兵監ニ屬ス

第十條 各生徒隊長ハ教育ノ事ヲ掌リ士官准士官及下士ヲシテ其諸科目ヲ分擔セシム

第十一條 生徒修業中ハ被服食料ハ官費トシ學科用書籍材料ハ官給若クハ貸與シ且

手當金若干ヲ給ス

第十二條 本團生徒ノ學期ハ概テ歩兵科ハ八月騎兵及輜重兵科ハ六月砲兵野戰砲兵及工兵科ハ四月ニ始リ各兵科ニ就キ其修業期限約テ左ノ如シ

歩兵科 十六箇月

騎兵科 十八箇月

砲兵野戰砲兵科 二十箇月

工兵科 二十箇月

輜重兵科 十八箇月

第十三條 本團生徒ノ教育ハ之ヲ分テ教授及訓育トシ其科目ハ歩兵科ニ在テハ團長、騎兵、砲兵野戰砲兵、工兵、輜重兵科ニ在テハ各當該兵監ノ定ムル處ニ據ル

第十四條 生徒隊ノ内務ハ概テ軍隊内務ノ規定ニ據ル

第十五條 生徒入團ノ上ハ自己ノ情願ヲ以テ退團スルヲ許サス而シテ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲナサシム

第十六條 生徒修業中ハ一切歸省休暇ヲ許サス而シテ行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢々法則ヲ犯シ又ハ傷痍、疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難ク若クハ卒業ノ目的ナキ者ハ退團セシム但傷痍疾病ニ係ル者ハ醫官ノ診斷ニ依テ處分ス

第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アルモノハ試験ヲ延期スルコトアリ此試験ニ及第セシ者ニハ本團教則卒業證書ヲ附與シ二等軍曹ニ任ス

第十八條 各學期末ヨリ次學期迄ノ間ニ於テ中隊長及各生徒隊附ノ士官ヲ各本科ノ兵隊ニ派遣シ隊附勤務ヲ爲サシム

陸軍省令第二十五號

陸軍教導團生徒召募規則左ノ通改正ス

明治二十七年十二月十一日

陸軍大臣 伯爵西郷從道

陸軍教導團生徒召募規則

第一條 陸軍教導團生徒ハ年齡滿十八年以上廿五年以下ニシテ歩兵、騎兵、野戰砲兵、工兵、輜重兵科ノ下士志願者中身體検査學科試験ノ成績ニ依リ所要人員ヲ採用ス其年齡ヲ算スルハ召募ニ應スヘキ年ノ四月ヲ以テス

第二條 左ニ掲クル者ハ志願者タルヲ得ス但入團願書差出ノ後本條ノ事故ヲ生スル者アルトキハ島司郡市長東京都大坂ノ三市ニ在テハ區長以下之ニ倣フハ速ニ大隊區司令官又ハ警備隊

區司令官ニ報告シ同官ハ之ヲ教導團長ニ報告スヘシ

- 一 陸海軍現役、豫備役、後備役ニ在ル者
 - 二 妻アル者
 - 三 復權ヲ得サル家資分散者、破産者及身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者及賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
 - 五 前諸項ノ外素行修マラサル者
- 第二條 砲兵、工兵科ハ身長五尺二寸以上歩兵、騎兵、輜重兵科ハ五尺以上ニシテ體質強壯ナルヲ要ス
- 第四條 學科試験科目左ノ如シ

- 一 讀書 日本外史又ハ日本政記ノ類(通讀)
 - 二 作文 記事文(漢字交リ)及通俗文
但作文ヲ以テ作字ノ巧拙ヲ試験ス
 - 三 數學 整數四則、分數、比例、開平、開立
試験ハ一科毎ニ若干ノ點數ヲ與ヘ其總點數ヲ平較シテ優劣ヲ定ム但一科ニ落第スル者ハ假令總點數ニ於テ優等ナリト雖トモ採用セス
- 第五條 志願者ハ第一書式ノ願書ニ第二第三書式ノ履歷書及戶籍寫各副本ヲ添ヘ要セス召募ニ應スヘキ前年ノ九月三十日迄ニ町村長ノ與書證印ヲ受ケ島司郡長ニ差出し市ニ在テハ直ニ市長ニ差出スヘシ但父兄親族等一家ノ戶主ニシテ身元慥ナルニ名ノ保證人ヲ要ス

島司郡市長ハ前項ノ願書ニ與書證印ノ上第四書式ノ志願者連名簿及各自ノ里程調書順路ニ基キ汽車路海陸路ノ區別ヲナシ若シ二道アルモノハ二道トモ取調ヲ要スヲ添ヘ之ヲ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付シ同官ハ十月三十一日迄ニ其人名及希望兵科ヲ教導團長ニ通報スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ身體檢査及學科試験ノ時日ヲ定メ教導團長及島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ之ヲ本人ニ通達スヘシ

第七條 志願者ノ身體檢査及學科試験ハ當該大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其司令部所在地ニ於テ之ヲ行フ

其身體檢査ハ司令部最密衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ檢査日割ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ

警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ請求スルモノトス

學科試験ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官身體檢査合格者ニ就テ之ヲ爲スヘシ

第二項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

志願者檢査場ヘノ往復旅費及滞在費ハ自辨トス

甲大隊區ノ志願者ニシテ居住地最寄ノ乙大隊區司令部ニ於テ身體檢査及學科試験ヲ受ケンコトヲ出願スル者アルトキハ甲乙兩大隊區司令官協議ノ上之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 學科試験ノ問題ハ教導團長之ヲ作り密封シテ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第九條 志願者ハ檢査時日ニ後レナル様當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ出

頭シテ指揮ヲ受クヘシ疾病其他ノ事故ニ依リ當日出場ヲ缺ク者アルモ之カ爲メ時日ヲ延ハスコトナシ

第十條 志願者試験ヲ受ケタル後ヲ轉住スルトキハ速ニ舊住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團ニ届出且之ト同時ニ新住地ノ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヘモ届出ヘシ

又已ムヲ得サル事故ニ由リ志願取消ヲ爲ントスル者ハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ其願書ヲ教導團ヘ差出スヘシ

第十一條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ハ學科試験ヲ終ルハ受験者ノ答解書ヲ取纏メ之ニ第五條ノ島司郡市長ヨリ受領シタル書類ヲ添ヘ連名簿ニ各自希望ノ兵科ヲ記入シテ十二月三十一日迄ニ教導團長ニ送付スヘシ

第十二條 教導團長ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ヨリ送付スル所ノ答解書ヲ
審査シ採用スヘキ者ト否トヲ決定シ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官島司郡市長
及町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ通達シ其採用者ニハ入團ヲ命スヘシ

第十三條 入團ノ達ヲ受ケタル者ニハ其居住地受驗當時ノヨリ教導團迄ノ里程ニ應
シテ舟車馬料及日當ヲ當該監督部ヨリ支給ス但自己ノ便宜ヲ以テ入團期日前早著
シ滞在スル者アルモ日當ヲ増給スルノ限リニアラス

第十四條 入團ヲ命セラレタル者居住地出發前疾病其他ノ事故ヲ生シ入團延期ヲ出
願セントスルトキハ入團期日ヨリ何日間猶豫ノ旨疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ市ヲ
町村長ノ證明書ヲ添付スヘシヲ
記載シ其願書ヲ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ヲ經テ教導團長ニ差出スヘ
シ又入團途中ニ於テ同一ノ事故ヲ生シ期日ニ著團シ難キトキハ電報若クハ郵便ヲ

以テ教導團長ニ届出事故止ミ著團ノ節疾病ハ醫師ノ診斷書其他ハ其地ノ市町村長
若クハ船長等ノ證明書ヲ以テ更ニ届出ヘシ

前項ニ依リ入團期日後十日以内ニ到着セサル者ハ除名スヘシ

第十五條 入團ノ達ヲ受ケタル者故ナク出發ヲ遅延シ若クハ無届ニテ期日ニ到着セ
ス或ハ自己ノ不注意ヨリシテ期日ニ後レタル者ハ採用セサルノミナラス支給セシ
旅費ヲ返納セシム

第十六條 採用スヘキ者著團スルトキハ再ヒ身體検査ヲ行フヘシ此検査ニ於テ不合
格ノ者ハ歸郷セシメ其旨ヲ教導團ヨリ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ通
報ス但自己ノ不攝生ヨリ發病スルモノト認ムルトキハ之ニ歸郷旅費ヲ給セサルノ
ミナラス入團旅費ヲ返納セシムルモノトス

第十七條 生徒入團ノ上ハ教導團條例第十五條ニ據リ左ノ誓約ヲ爲サシム

誓文

今般陸軍出身志願ニ付教導團生徒奉願候處御許容相成候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守誓テ陸軍ニ從事可仕且御定規ノ服役年間ハ假令疾病ト雖トモ醫官ノ診斷ニ依ラスシテ免役ヲ請願致候等ノ儀毛頭仕間敷候依テ誓文如件

年 號 月 日

姓 名 印

附則

第十八條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十九條 沖繩縣下ノ志願者ニ關シ大隊區司令官ノ取扱ニ係ルモノハ當分ノ内沖繩

分遣歩兵隊長之ヲ取扱フヘシ

第二十條 明治二十八年召募ノ者ニ限リ第五條ノ願書差出期限ヲ一月十五日第十一條ノ書類送付期限ヲ二月十五日迄トシ第五條ノ人名通報期限ハ適宜トス但第五條ノ願書其他ノ書類ハ島司郡市長ヨリ一月二十五日迄ニ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ送付スヘシ

第一號書式 用紙美濃紙

教導團入學願

某 儀

陸軍出身志願ニ付教導團生徒トシテ入學仕度候間御試驗ノ上御採用被下度入團ノ上ハ御規則嚴重ニ相守リ誓テ陸軍ニ從事可仕本人身上ノ儀ハ何事ニ依ラス身元保證人ニ於テ引受可申依テ履歷書及戶籍寫相添保證人連署此段奉願候也

年 號 月 日

第一號書式

府(縣)何族(平民)職業
 戶主ニ非レハ某子弟

何國何郡(市)何町(村) 第一希望何科 第四希望何々 姓 名 印
 何國何郡(市)何町(村) 第二希望何々 第五希望何々 年號月日生
 何番地住(寄留) 第三希望何々 明治何年四月何年何箇月

身元保證人
 府(縣)何族(平民) 姓 名 印
 何國何郡(市)何町(村)何番地住(寄留) 姓 名 印
 同上 同上
 同上 同上
 陸軍教導團長官 姓 名 殿
 右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也
 府(縣)市(郡町)村)長 姓 名 印

前書之通相違無之候也

府(縣)島司(郡長)

姓 名 印

履歷書 書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記載スヘシ

府(縣)何族(平民)職業

戶主ニ非レハ某子弟等

一何年何月種痘(天然痘)

姓 名

一陸海軍現役、豫備役、後備役ニアラス

一妻ナシ

一家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシコトナシ

(家資分散ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ又ハ身代限ノ

處分ヲ受ケシモ負債ノ辨償ハ既ニ完了ス)

一禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナシ

及賭博犯ノ處分ヲ受ケシコトナシ

一何年月日任何官(免本官)(廳)等

一何年月日何職被申付(何職被免)(廳)等

第三號書式

三三四

第三號書式 用紙美濃紙

一 何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)入學何科卒業(何學修學)

一 何年月日ヨリ何年月日迄何學研究(商業)ノ爲メ何國外國ヲニ在留

一 何年月日徴兵(士官候補生、幼年學校生徒、教導團生徒、海軍兵學校生徒等)ノ檢査ヲ受ケ體格身軀胸圍體重不足等學科ニ合格セス

一 何年月日何々ニ依テ賞典何々下賜

一 何年月日何々ノ科ニ依リテ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年 號 月 日

本人 姓 名 印

身元保證人 姓 名 印

一 父 某

一 祖母 某

一 祖父 某

戶籍寫 戶籍中現在スル者ノミヲ記載スヘシ

第三號書式

用紙美濃紙

一 母 某 何年何月日生

一 兄 某 同右

一 弟 某 同右

一 姉 某 同右

一 妹 某 同右

右之通相違無之候也

年 號 月 日

本人 姓 名 印

身元保證人 姓 名 印

第四號書式 用紙半紙

第四號書式 用紙半紙

陸軍教導團生徒志願者連名簿

何縣何郡(市)

摘 要	府縣族籍職業	何年	何年四月調	姓	名
-----	--------	----	-------	---	---

第四號書式

三三五

陸達第二十三號

明治二十二年三月陸達第三十九號陸軍志願兵身體檢查規則左ノ通改

正ス

明治二十五年三月二十六日

陸軍大臣 子爵高島鞆之助

陸軍志願兵身體檢查規則

第一條 陸軍志願兵徵兵事務條例施行細則第八條ニ當ル者ハ除ク身體檢查ハ其身材ノ合格ト不合格トヲ判

別スルモノトス而シテ此檢查ハ學術上諸種ノ方法ヲ施スコトヲ得

此規則ハ陸軍士官候補生並陸軍諸生徒志願者ノ身體檢查ニ適用ス

第二條 志願者一日ノ檢查人員ハ醫官一名ニ付概テ四十名トス

第三條 志願者ノ身長ヲ定ムルコト左ノ如シ但別ニ規定スル所アルモノハ此限ニ非

ス

滿十五歲以上 四尺七寸以上

滿十六歲以上 四尺八寸以上

滿十七歲以上 四尺九寸以上

滿十八歲以上 五尺以上

第四條 體格ヲ區別スルコト左ノ如シ

- 一 合格徵兵検査規則第三條ノ甲種乙種ニ該當スルモノ身長ノ制限ハ本則第三條ニ據ル
- 二 不合格前項ニ該當セサルモノ

第五條 近視ノモノハ合格トナスコトヲ得ス但各兵科士官候補生志願者ニ在テハ二十尺ノ距離ニ於テ眼鏡ヲ用ヒス斯涅兒連氏視力表ノ三十號ヲ視得ルモノ一年志願兵志願者ニ在テハ同百號ヲ視得ルモノヲ採ルコトヲ得衛生部士官候補生志願者ニ在テハ尙高度ノモノヲ採ルモ妨ナシ

第六條 一年志願兵志願者ニ限リ第四條ノ不合格中二十歳未満ノ者ヲ除ク徵兵検査規則第三條ノ丙種若クハ丁種若クハ戊種ニ當ルヘキモノナルコトヲ區別スヘシ

第七條 醫官ハ検査終了後一週日以内ニ體格表(第一式)ヲ調製シテ所管軍醫長ニ報

告シ軍醫長ハ之ヲ陸軍省醫務局長ニ呈スヘシ

第八條 士官候補生並諸生徒志願者ノ體格検査表(第二式)ハ検査終了後士官候補生並諸生徒ノ属スヘキ部隊ニ各兵科士官候補生及幼年學校生徒志願者ノ検査表ハ師團司令部 教導團生徒志願者ノ検査表ハ大隊區司令部ヲ經テ送附スヘシ (表式ハ畧ス)

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日 陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第百八十一號

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ
- 第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ從事セシム
- 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ招募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム
- 第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス後備役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及

升七年七月勅令第九十四號參看

簡閱點呼ヲ爲ス

屯田兵ニシテ招募ノ條件ニ違背シ其ノ他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサル者ハ兵役ヲ免ス

第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ時變ニ際シ召集ス

第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第八條 明治二十七年以前ニ招募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

屯田兵條例自第五條至第八條

- 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム
- 一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
- 一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
- 一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召募シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ三箇年間後備役ニ服セシム
- 一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ三箇

年間後備役ニ服セシム

第九條 前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他

特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

陸軍省令第六號

明治二十三年陸軍省令第三十號屯田兵召募規則左ノ通改正ス

明治二十七年五月二十一日 陸軍大臣 伯爵大山 巖

屯田兵召募規則

- 第一條 屯田兵ハ志願者中召募檢査ニ合格シタル者ヨリ採用シ毎年四月ニ於テ移住セシム
- 第二條 屯田兵召募檢査ハ其年ノ召募區域内ニ於ケル大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ行フ
- 第三條 屯田兵召募區域及其人員ハ召募スヘキ前年ニ於テ之ヲ告示ス
- 第四條 屯田兵志願者ハ前條ノ告示ニ依リ其年ノ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書ニ第二第三第四書式ノ履歷書、戶籍明細書、家族身體證明書ヲ添ヘ市町村長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區ニ差出スヘシ
- 第五條 市町村長前條ノ願書ヲ受領シタルトキハ第五書式ニ依リ志願者ノ身元證明

書ヲ作り願書ニ添ヘ府縣廳町村長ハ島司ニ差出シ府縣廳ニ於テハ之ヲ審査シ更ニ郡長ヲ經テ

第六書式ノ連名簿ヲ作り九月三十日迄ニ當該大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附シ願書、履歷書、戶籍明細書及家族身體證明書ハ同時ニ屯田兵司令部ニ發送スヘシ

第六條 大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前條ノ連名簿ヲ受領シタルトキハ島司郡市長ニ協議シ檢査場ヲ定メ檢査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ其當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者ヲ引纏メ檢査場ニ出頭セシムヘシ但志願者ニハ第二書式履歷書ノ寫ヲ携帯セシムヘシ

志願者檢査場ヘノ往復旅費並滞在日當ハ之ヲ給セス

第七條 屯田兵志願者願書ヲ差出シタル後自己及家族ノ身上ニ異動ヲ生シタルトキ

ハ書面ヲ以テ 志願者ノ死亡失踪處刑 市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ 警備隊區司令官ニ届出ヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官前項ノ届書ヲ受領シタルトキハ之ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ

第八條 屯田兵召募検査終レハ大隊區司令官警備隊區司令官ハ第八書式ノ検査成績表 不合格者ヲ除ク 及第九書式ノ里程表ヲ作り十二月三十一日迄ニ到達ノ時日ヲ測リ之ヲ

屯田兵司令官ニ送附スヘシ但里程表ノ調製ハ第十附表屯田兵集合地名表ニ基クヘシ

屯田兵司令官ハ検査成績表及第五條ノ書類ヲ審査シ採用スヘキ者ト豫備員トヲ定メ其人名簿並採用スヘキ者ノ集合地ヘ參集期日ヲ大隊區司令官警備隊區司令官ニ

通知シ同官ハ第六條ノ手續ニ依リ之ヲ本人ニ告達シ又府縣廳ニ通知スヘシ

第九條 屯田兵移住ノ際ハ府縣知事吏員ヲ其集合地ニ派遣シ屯田兵受領員ニ引渡サシメ且其宿泊乗車乗船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第十條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ資格ハ左ノ如シ

一 年齢 滿十七年以上二十五年以下 召募年ノ四月一日ヲ以テ算スノ者

但陸軍各兵科豫備後備在役ノ下士上等兵ハ滿三十年以下ノ者

二 身長 五尺以上ノ者

但年齢二十年未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上

三 體質 强健ニシテ兵農ノ動作ニ堪ムル者

第十一條 前條ノ資格アル者ト雖モ左ノ事項ニ該ル者ハ採用セス

- 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵
- 二 一家中耕稼ノ勞働ニ堪ユル強壯者 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者ハ除ク 本人ヲ併セテ三人ニ滿タサルモノ
- 三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者並其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者
- 四 素行修マラサル者
- 五 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 六 養子ニシテ入籍後第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
- 七 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第四條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者

第十二條 屯田兵志願者ノ身體檢査ハ陸軍志願兵身體檢査規則ニ依ル屯田兵志願者身體檢査醫官ハ檢査場最寄衛戍地在職ノ軍醫ヲ派シテ之ニ任セシム之カ爲メ大隊區司令官ハ豫メ檢査日割及檢査場ヲ師團長ニ上申シ軍醫ノ派遣ヲ申請スヘシ但警備隊區ニ在テハ警備隊區司令官ヨリ警備隊司令官ニ軍醫ノ派遣ヲ請求スルモノトス

前項ノ軍醫ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ノ指揮ヲ受クルモノトス

第十三條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ家族^{成年以上ノ者}ト共ニ第七書式ノ誓文書ヲ作り市町村長及島司郡長ヲ經テ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文書ハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官之ヲ取纏メ屯田兵司令官ニ送附

スルモノトス

第十四條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ屯田兵司令部ヨリ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ送附スヘシ

大隊區司令部又ハ警備隊區司令部前項諸費ノ送附ヲ受ケタルトキハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十五條 屯田兵ニ採用ノ違ヲ受ケタル者ニシテ移住前戸主トナラサル者若クハ第十一條ニ該當シ又ハ失踪死亡等ノ事故ヲ生シタルトキハ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官其採用ヲ取消シ豫備員ヲ以テ之ヲ補充シ其旨ヲ屯田兵司令官ニ通報スヘシ但其採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ之ヲ返納セシムヘシ

第十六條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ定メ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ戸主ヨリ大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出ヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ大隊區司令部又ハ警備隊區司令部ニ就キ旅費日當ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

大隊區司令官又ハ警備隊區司令官ニ於テ前項ノ許可ヲナストキハ其旨ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十七條 臨時屯田兵ノ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ屯田兵服役者ノ家族中男子ニシテ分籍ヲ志願スル者ノ内ヨリ採用スルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ在テハ本規則第十條乃至第十三條ノ例ニ準據ス

第十八條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以內トシ一箇ノ重量ハ九貫目以內トス但左

ニ掲シル物件ハ携帯スルヲ許サス

一 長持若クハ之ニ等シキ體積ノモノ

二 大形ノ箆筒若クハ之ニ類スルモノ

三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類

四 罌若クハ白類

五 危險物

六 以上掲クルモノ、外取扱ノ困難ナルモノ

附則

第十九條 本令施行期限以前從前ノ規定ニ依リ願書ヲ府縣廳ニ差出シタルモノハ之

ヲ受理ス

第二十條 市制町村制實施ヒサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃紙

屯田兵服役願

某 儀

屯田兵志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道
へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申仍テ別紙履歷書戸籍明細書
及家族身體證明書相添へ此段奉願候也

年號月日

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)

產地

姓 名 印

年 號 月 日 生
何年四月何年何箇月

屯田兵司令官姓名殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓名 印

一 志願者戸主ニ非ルトキハ戸主連署スヘシ

第二書式 用紙美濃紙

履 歷 書

族籍(戸主ニ非ル者ハ某子弟等)

何年何月種痘(天然痘)

姓

名

年 號 月 日 生

一 何年月日ヨリ何年月日マテ何學校(塾)入學何科卒業(何學修業)

一 何年月日ヨリ何年月日マテ何學研究(商業)ノ爲メ何處留學(滞在)

一 何年月日何官(何職)任(免)何省何府縣廳

一 何年月日ヨリ何業ニ従事何年間繼續後何々ニ轉業目下何々業

一 何年月日何々ニ依リ賞典何々下賜

一 何年月日何々科ニ依リ何罰申付ラル

右之通相違無之候也

年號月日

本人 姓

名 印

書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記スヘシ

一 志願者戸主ニ非ルトキハ戸主連署スヘシ

第二書式 用紙美濃紙

戸籍明細書

何府(縣)何市(郡)何町(村)族籍職業

戸主

年 號 月 日 生

何年四月何年何箇月

祖父

同上

某

何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女

祖母

同上

某

癈疾不具等

實(養)父

同上

某

何府(縣)何市(郡)何町(村)何某女

實(養)母

同上

某

何府(縣)云々

妻

同上

某

(養子ナレハ)何年何月入籍

何男(何女)(養子女)某

屯田兵召募規則第二書式

陸海軍現役兵海軍隊後備兵
ナレハ何年何月日何役滿期
兄(弟)(姉)(妹) 某
同上
同上
右之通ニ候也
年號月日
本人 姓 名 印
右取調候處相違無之候也
年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名 印

一 戶主ト異ナル業務ニ從事スル者又ハ特別ノ技能ヲ有スル者ハ名ノ上ニ何業ニ從事何々ヲ能クスル等記スヘシ
一 志願者戶主ニ非ルトキハ戶主連署スヘシ
第四書式

家族身體證明書

一 父 某 體格強壯ニシテ勞働ニ堪ユ○何歳ノ時何病ニ罹リシコトアリ
一 妻 某 體格稍虛弱○幼時ヨリ大患ニ罹リシコトナシト雖モ四年來歇斯的里症ヲ患フ○現今時々頭痛胃瘧等ノ症アリテ爲メニ連日業務ヲ廢スルコトアリ

一 弟 某 體格強壯○生來大患ニ罹リシコトナシ○本月何日來肺義膜炎ニ罹リ目下何々ノ症アリ豫後ト知シ難シ
(以下前例ニ倣フ)
右診查ノ上及證明候也

年號月日 住所族籍 醫 姓 名 印
右之通ニ候也
族籍 本人 姓 名 印
年號月日

一 本書ノ家族ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ニ限ル
第五書式

身元證明書

族籍(戶主ニ非ル者ハ某子弟等)
姓 名
一 身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ(身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ了ル)(家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ)
一 現今負債ナシ(現今幾許ノ負債アリト雖モ移住前ニ辨償シ得)

ル見込ナリ)

- 一 陸海軍現役兵海軍豫備兵後備兵ニ非ラス
- 一 禁錮ノ刑ニ處セラレタルコトナシ
- 一 品行方正
- 一 召募區域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ
- 一 入籍後出願時期迄ニ已ニ一箇年ヲ經過セリ(養子ナレハ)
- 一 家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無(某何々ノ罪ニ由リ處セラレ或ハ自下(某何々ノ罪ニ由リ)拘留中、刑期中等)

右之通ニ候也

年號月日 何府(縣)何市(何郡何町(村))長姓 名印

第六書式

屯田兵志願者連名簿

產地	住所	族籍			誕生	姓名			
		大	中	小					
何縣何市何町	何府何市何町	士族	三	一	〇	何年何月何日	戸主	何	某
何縣何郡何村	何縣何郡何村	平民	四	一	一	何年何月何日	某二男	何	某

一 家族人員ノ區畫中大ハ十五歲以上六十歲未滿ノ者ヲ記シ中ハ六十歲以上及七歲以上十五歲未滿ノ者ヲ記シ小ハ七歲未滿ノ者ヲ記スヘシ

一 志願者戸主ニ非ルトキハ姓名ノ肩ニ戸主ノ續柄(某子弟等)ヲ記スヘシ

第七書式 用紙美濃紙

誓文

今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ誓テ兵農ニ従事可仕且服役中ハ決シテ自ラ免役ヲ請願致シ候等ノ儀仕間敷尙ホ左ノ條々堅ク相守リ聊カ違背不仕候仍テ家族連署誓文如件

一 服役中年齡滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ由リ免役ト爲ルトキハ子弟ハ養子弟等ニ於テ家名相續致シ本人ノ服役殘期

- 間兵役ニ服シ可申事
- 二 戸主ハ家族ヲ訓戒誘導シ家族ハ戸主ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ戸主出務ノ間ハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ戸主ヲシテ内顧ノ憂ナカラシムル様可致事
- 三 官給ノ土地ヲ墾成セサル間ハ一意農業ニ從事シ許可ヲ得スシテ他所ニ寄寓シ或ハ他ノ事業ニ従事スル等ノコト致ス間敷事
- 四 時々ノ御達並ニ訓旨等ハ家族ニ至ルマテ嚴重ニ遵守可仕事

年號月日
 本人 何 某 印
 同人父 何 某 印
 同人母 何 某 印(捺印)

第八書式

檢査成績表

何大隊區(警備隊區)

住所	職業	兵役	年齡	等位	身長	教育ノ程度	參考事項	姓名
何郡何村農	豫備	何年何月	甲(乙)	五尺二寸	上(中)志操確實	何	某	某

- 一 職業ニ兼業アル者ハ之ヲ併セ記スヘシ
- 一 年齡ハ召募年ノ四月一日ヲ以テ計算スヘシ
- 一 教育ノ程度ハ高等小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ上トシ尋常小學卒業及凡ソ之ト同等以上ノ者ヲ中トシ稍簡易ノ算筆ヲ爲シ得ル者ヲ下トシ全ク之ヲ能クセサル者ヲ不ト記スヘシ
- 一 參考事項ニハ本表ニ例ヲ示スノ外町村中名望アル者之ハ鄉黨ニ指彈セラ
- ル、者其他召募上參考トナルヘキモノト認ムル事項ヲ記スヘシ

第九書式

里程表

何大隊區(警備隊區)

住所	集合地	住所ヨリ集合地ニ至ル經路	同上里程	姓名
何郡何村	地名	何地ニ出テ何道通	何十里	何 某

第五	第四										第三											
	尾 ノ 道	松 江	山 口	廣 島	福 知 山	神 戶	岡 山	姫 路	京 都	大 津	和 歌 山	大 坂	福 井	富 山	金 澤	靜 岡	豐 橋	岐 阜	津 屋	名 古 屋	柏 崎	新 發 田
	尾 ノ 道	境 關	馬 關	廣 島	宮 津	神 戶					敦 賀	伏 木	清 水	四 日 市	新 潟	土 崎						

第二	第一										師 管 大 隊 區 警 備 隊 區 集 合 地	
	山 形	青 森	盛 岡	福 島	仙 臺	宇 都 宮	本 郷	水 戸	佐 倉	長 野		高 崎
	酒 田	青 森	萩 ノ 濱		横 濱							

第六		松山	三ツケ濱
丸龜	多度津	德島	徳島
高知	高知	熊本	高知
熊本	三角	大分	三角
宮崎	細島	鹿兒島	細島
鹿兒島	鹿兒島	小倉	鹿兒島
佐賀	門司	福岡	門司
福岡	博多	長崎	博多
長崎	長崎		長崎

- 一 本表中盛岡大隊區ノ内宮城縣登米本吉栗原ノ三郡ハ萩ノ濱ニ其他ノ郡市ハ青森トス
- 一 一師管中某大隊區ヲ限リ召募スルトキハ臨時集合地ヲ指定スルコトアルヘシ
- 一 人員寡少若クハ其他ノ都合ニ由リ必要ト認ムルトキハ屯田兵司令官一時本表ノ集合地ヲ變更スルコトヲ得

朕屯田兵土地給與規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月五日

- 内閣總理大臣伯爵山縣有朋
- 内務大臣伯爵西郷從道
- 大藏大臣伯爵松方正義
- 陸軍大臣伯爵大山巖

法律第七十九號

屯田兵土地給與規則

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス

第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理用并ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若ハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス

第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル

部分ハ沒收ス

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件ハ併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス

第七條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

廿八年三月勅令第三
二十五號
參看

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵又屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタルモノニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

朕屯田兵移住給與規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十七年七月十一日 陸軍大臣 伯爵大山 巖

勅令第九十六號

屯田兵移住給與規則

第一條 屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給與ス

一 支度料 一戸ニ付五圓

二 旅費日當 一人一日ニ付三十錢七歳未満ハ半額

三 運搬料 一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條 旅費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里計トシ給與ス

一里以上六里未満ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條 集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ官ニ於テ仕拂フモノトス

第四條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居残り若クハ途中ニ於テ滞在シ他日移住地ニ至ル者ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滞在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢
七歳未満ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師又ハ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷料、治療費及入院料入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セスハ實費ヲ給與ス但

傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書、其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條 屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸屬具、家具、夜具、農具、種物、扶助米及鹽菜料ヲ給與ス但井戸及屬具ハ實際ノ景況ニ由リ二月以上ニ一箇ヲ給與スルコト

ヲ得

移住後滿三箇年間ニ於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具、夜具及農具ヲ亡失若クハ破損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條 家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 鍋 大小 各一箇
- 二 茶碗 五箇
- 三 手桶 一荷
- 四 小桶 一組
- 五 擔桶 一荷
- 六 柄杓 一箇

七 燈具 一箇

八 鐵瓶 一箇

第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス
一 四布 三枚
二 三布 二枚

第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

一 鍬 大小 各一挺
二 唐鍬 大二挺 小一挺
三 砥 荒砥、中砥、鎌砥 各一箇

四 山刀 一挺

五 鑪 二挺

六 鑼 一挺

七 鋸 大小 各一挺

八 鎌 柴刈、草刈 各一挺

九 筴 二十枚

十 熊手 二挺

十一 培養桶 一箇

右ニ掲クル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼杵一箇ヲ給與ス

第九條 種物ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給

シ又時宜ニ依リ代金ヲ給與スルコトヲ得

- 一 麻種子 一斗
- 二 大麥 一斗
- 三 小麥 一斗
- 四 大豆 一斗
- 五 小豆 五升
- 六 馬鈴薯 四斗
- 七 蠶卵紙 四半枚

第十條 扶助米及鹽菜料ハ移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間左ノ區分ヲ以テ
 毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日

數ニ乘シテ給額ヲ定ム

給與年限	區分		一人一箇月ノ給額	
	扶助米	鹽菜料	扶助米	鹽菜料
第一期 移住ノ月ヨリ滿二箇年間	甲 額	乙 額	玄米二斗二升五合	四十五錢
	乙 額	丙 額	玄米一斗五升	三十五錢
	甲 額	乙 額	玄米一斗三升五合	三十一錢
	乙 額	丙 額	玄米九升	二十一錢
第二期 第一期後滿一箇年間	甲 額	乙 額	玄米一斗四升	三十一錢
	乙 額	丙 額	玄米九升	二十一錢
	甲 額	乙 額	玄米一斗三升	二十七錢
	乙 額	丙 額	玄米四升	十七錢
第三期 第二期後滿二箇年間	甲 額	乙 額	玄米一斗三升	二十七錢
	乙 額	丙 額	玄米四升	十七錢
	甲 額	乙 額	玄米一斗三升	二十七錢
	乙 額	丙 額	玄米四升	十七錢

甲額ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ニ、乙額ハ七歳以上十五歳未滿及六十歳以上ノ者ニ、丙額ハ七歳未滿ノ者ニ給與ス

扶助米及鹽菜料ハ毎月一日ノ現員ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 移住地到着後五日以内ハ扶助米及鹽菜料ニ換ヘ一人一日ニ付三十錢未滿七歳

額ハ半 以內ノ現賄ヲ給與シ又時宜ニ由リ到着後二十日以内ハ玄米ヲ二割減ノ割合ヲ以テ精米ニ換ヘ給與スルコトヲ得

第十二條 扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

- 一 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
- 二 附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ縁故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
- 三 移住後滿三箇年以内ニ於テ婚姻、縁組及出產ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス
- 四 家族中恩給、扶助料其他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

五 屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ並ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米及鹽菜料ヲ控除ス

六 屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム

七 第一第三ニ該ル者ハ其戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期トス

第十三條 屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シニ事業場四棟ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟トナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時期リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村分ヲ併セテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲ニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ屯田兵司令官之ヲ定ム

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後滿五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

- 一 五圓 七歳以上ノ者
- 二 二圓五十錢 七歳未滿ノ者

附則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ従前ノ規程ニ依ル

朕海軍兵學校條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十六年十一月二十九日

海軍大臣 伯爵西郷從道

勅令第二百十七號 (官報十二月一日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲ルヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ノ學科ハ砲術、水雷術、運用術、航海術、機關術及普通學トス

第三條 生徒ノ學年ハ四箇年トス

但戰時又ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

廿七年九月
勅令第九
百六十九
號參看

第四條 海軍兵學校ニ練習船ヲ附屬セシムルコトヲ得

第五條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長	海軍大佐	一人
副官	海軍大尉	二人内一人ハ教官ヲ以テ兼補ス
教頭	海軍少佐	一人
砲術教官	海軍少佐	一人
水雷術教官	海軍大尉	三人
運用術教官	海軍少佐	一人
航海術教官	海軍大尉	三人
機關術教官	海軍少佐	一人
	海軍機關少監若クハ大機關士	一人
	海軍大機關士	一人
	海軍大技士	一人

海軍兵學校條例第四條第五條

普通學教官	海軍教授	七人
監事長	海軍少佐	一人教官ヲ以テ兼補ス
監事	海軍大尉	九人内八人ハ教官ヲ以テ兼補ス
軍醫長	海軍々醫少監	一人
軍醫	海軍大軍醫	一人
	海軍少軍醫	一人
主計長	海軍大主計	一人
主計	海軍少主計	一人

本條砲術、水雷術、運用術、航海術教官ノ内一人ハ教頭ヲ以テ之ニ兼補ス

本條定員ノ外本職アル者ヲシテ教官ニ兼務セシムルコトヲ得

第六條 校長ハ海軍大臣ニ隸シ校務ヲ管理シ紀律ヲ維持シ及生徒教育ノ責ニ任ス

第七條 校長事故アルトキハ教頭其ノ職務ヲ代理ス

第八條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第九條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教授ノ事ヲ監督ス

第十條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第十一條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ其ノ紀律ヲ維持シ及其ノ體育ノ事ヲ掌ル

第十二條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ノ事ヲ掌ル

第十四條 軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十五條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ノ事ヲ掌ル